

東北環境パートナーシップオフィス

運営第5期

令和2年度 事業実施報告書

運営第5期：平成31年度（令和元年度／2019年度）
～令和3年度（2021年度）



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development



公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）

目次

I .EPO 東北 運営第 2 期～第 4 期総括

1. 運営期と主な出来事	P5
2.EPO 東北事業の変遷	P6
3. 情報発信の記録	P10
4. 総括	P14

II . 事業計画

1. 運営第 5 期 中期事業計画	P17
2. 令和 2 年度事業計画	P18
3. 令和 2 年度事業予定一覧	P22

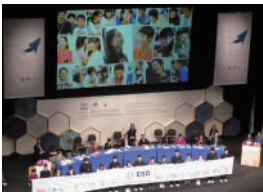
III . 事業報告

1. 令和 2 年度 総括	P26
2. 出張・外出のべ日数	P27
3. 事業実施一覧	P28
4. 事業実施報告	P30
(1) EPO 東北業務	
1) 基本業務	P30
① Web サイト等を活用した情報発信、PR	
② 相談対応・対話の場づくり	
③ 全国事業に関わる業務	
④ 施設の維持・管理	
2) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務	P34
① 地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務	P34
・ 地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務	
・ 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会の支援業務	
・ 環境省主催の地域循環共生圏の支援に向けた情報交換会等への出席	
・ 地域での地域循環共生圏に関するヒアリング	
② 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催	P38
② -1 環境学習施設等との会議の開催	P38
② -2 パートナーシップ団体情報交換会	P40
③ 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	P41
3) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化	P42
4) 事業検討委員会の開催	P44

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター業務	
1) ESD 活動に関する相談・支援窓口	P45
2) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等	P47
3) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会の運営等	P48
4) 全国センター開催業務への出席及び対応	P48
5) ESD 活動に関するネットワーク構築	
① ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席	P49
②東北 ESD / SDGs フォーラムの開催	P50
③地域 ESD 拠点の登録及び支援	P52
④ ESD ネットワーク会議	P53
⑤ ESD 推進・地域研修会	P54
6) その他	P58
(3) 東北地方環境事務所との協働による事業実施	P58
(4) 企業等との協働事業	
1) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携	P59
2) GreenGift 地球元気プログラム	P60

I .EPO 東北 運営第 2 期～第 4 期総括

I -1. 運営期と主な出来事

期	年度	運営団体	主な出来事
第1期	平成18年度 (2006)	NPO 法人 水環境ネット東北	7月22日開設
	平成19年度 (2007)		
	平成20年度 (2008)		
	平成21年度 (2009)		
第2期	平成22年度 (2010)	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ ネットワーク (MELON)	 COP10※1
	平成23年度 (2011)		 H23/3/11 東日本大震災
	平成24年度 (2012)		 3.11 ヒアリング
第3期	平成25年度 (2013)		 協働取組加速化事業※2
	平成26年度 (2014)		 ESD ユネスコ世界会議※3
	平成27年度 (2015)		 みちのく薪びと祭り開催／H26
第4期	平成28年度 (2016)		 東北地方 ESD活動支援センター Education for Sustainable Development 東北 ESD センター開設／H29
	平成29年度 (2017)		 ビジターセンター交流会
	平成30年度 (2018)		 同時解決事業※4
第5期	令和元年度 (2019)		 東北 ESD/SDGs フォーラム
	令和2年度 (2020)		 オンライン会議の導入
	令和3年度 (2021)		

※1「COP10」 生物多様性条約第10回締約国会議（名古屋／H22/10/11-29）

※2「協働取組加速化事業」 環境省 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業（H25～29年度まで5年間実施）

※3「ESD ユネスコ世界会議」 持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議（名古屋／H26/11/10-12）

※4「同時解決事業」 環境省 SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務（H30～R1年度）

I -2.EPO 東北事業の変遷

運営第 2 期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

EPO 東北
独自事業

主催型

シンポジウム
フォーラム

交流会型事業へ

再生可能エネルギー交流会



再生可能エネルギー交流会①②



東日本大震災対応

H23 (2011) 年
3月11日(金) 14時46分
東日本大震災

- ・ 1 週間閉館／スタッフ自宅待機
- ・ 3/22 ～出勤
 - 各家庭の状況確認
 - 事務局体制、勤務について協議
 - 東北地方環境事務所と対応協議



現場踏査・ヒアリング

- ・ Web サイト特設ページ開設
- ・ 3.11 からの学びの記録・発信



継続

冊子化①



環境省伴走支援事業、他

COP10
生物多様性交流フェア
ブース展示



復興支援活動のマッチング
グリーンサンタ®
被災小学校・幼稚園訪問



環境 NPO 等
ビジネスモデル策定事業

【宮城】NPO 法人東鳴子ゆめ会議
【宮城】NPO 法人日本の森
バイオマスネットワーク



運営第3期

H25 (2013) 年度

H26 (2014) 年度

H27 (2015) 年度

EPO東北
独自事業

事業連携の模索

地域開催型へ

分科会

テーマ「薪」
テーマ「BDF」

みちのく薪びと祭り

第1回 in 山形さんぜ

第2回 in 岩手とおの

EPO 間連携

再生可能エネルギー交流会 in 広島

再生可能エネルギー交流会 in 福岡

再生可能エネルギー交流会 in 四国

中間支援組織交流会 in 宮城

中間支援組織交流会 in 広島

中間支援組織交流会 in 関東



東日本大震災対応

現場踏査・ヒアリング

冊子化②



追加ヒアリング

冊子化③



事例集

「3.11 あの時
教訓事例集
- 中間支援組織
1年間の後方支援活動
の記録 -」



EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知



環境省伴走支援事業、他

【岩手】(株) 紬
【宮城】(一社) チガノウラカゼコミュニティ

地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【宮城】(一社) 持続可能で安心安全な社会を
めざす新エネルギー活用推進協議会



事例集



地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【青森】(一社) 白山山地財団



【岩手】マイムマイム奥州
【秋田】(一社) あきた地球環境会議



I -2.EPO 東北事業の変遷

運営第 4 期

	H28 (2016) 年度	H29 (2017) 年度	H30 (2018) 年度
EPO 東北 独自事業	協働による事業展開の模索 みちのく薪びと祭り ● 第 3 回 in 福島みなみあいづ EPO 間連携 ● 中間支援組織交流会 in 四国	● 第 4 回 in 宮城なるこ	● 第 5 回 in 秋田梅内 ビジターセンター交流会 第 1 回 in 仙台 第 2 回 in 網張ビジターセンター
			
東北 ESD センター	地方 ESD 活動支援センター設置に向けた体制整備等検討業務 	東北地方 ESD 活動支援センター ・ 7/3 開設 ・ 東北 ESD フォーラム 2018(仙台) 	東北 ESD フォーラム in 岩手 
東日本大震災対応	EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業 ● ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知 	● ESD 学びあいフォーラム in 中部 	● ESD 学びあいフォーラム in 愛知 
環境省伴走支援事業	地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業 【秋田】(一社)あきた地球環境会議 【山形】三瀬地区自治会 環境教育における「ESD 推進」のための先導的取組調査・実践拠点支援事業 【青森】NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター 【岩手】マイムマイム奥州	【山形】三瀬地区自治会  環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業 【青森】NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター 【秋田】(一社)あきた地球環境会議	SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業 【山形】三瀬地区自治会  【秋田】(一社)あきた地球環境会議

運営第5期

	H31/R1(2019) 年度	R2 (2020) 年度	R3(2021) 年度
EPO東北 独自事業	みちのく薪びと祭り 第6回 in 青森おおわに EPO 間連携 第3回 in 名取トレイルセンター ビジターセンター交流会 	薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北 中止 第4回 in 裏磐梯ビジターセンター 	
東北ESDセンター	- 東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台 - ESD 推進・地域研修会 in 青森 	- 東北 ESD/SDGs フォーラム 2020 YouTube 配信 - ESD 推進・地域研修会 in 青森 	
東日本大震災対応	福島ヒアリング 	福島ヒアリング 大震災から 10 年 新型コロナウイルス感染症 - 会議室の貸出中止 4/7～5/7、3/22～4/11 - 執務室・会議室の感染予防対策実施 - 会議室貸出ガイドラインの作成 《緊急事態宣言》 4/7 7 都府県を対象 3/18～4/11 宮城・仙台で独自の非常事態宣言 4/16 全国へ拡大 5/14 39 県で解除 5/25 全国で解除 1/7 1 都 3 県を対象 1/13 11 都府県に拡大 2/1 1 県で解除 3/22 全面解除	
環境省伴走支援事業	【山形】三瀬地区自治会  地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む採択団体の支援等の実施	地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務 【石巻】(一社) Reborn-Art Festival (リボン・アート・フェスティバル) 【山形】三瀬地区自治会  地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	

I -3. 情報発信の記録

運営第2期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

ウェブサイト等

環境の整備
情報発信ツールリニューアル

- Web-site
- メールマガジン
(月1回+増刊号)
- リーフレット
- 封筒

H23 (2011) 年
3月11日(金) 14時46分
東日本大震災

【緊急対応】
Web-site
3/17 閉館のお知らせ掲載
3/24 ~ 震災対応に関する
お知らせ掲載

Web-site

「3.11 あの時」特設ページ開設

- スタッフ発信「現地レポート」
- 「3.11 あの時」レポート配信



サイトリニューアル

- 「3.11 あの時」特設ページ
→常設ページへ
- 前年度掲載ページの移行



機関誌

- 紙面リニューアル
- 年2回発行



- 特集面に環境復興再生プロジェクトを掲載
- エコグッズ紹介面に復興支援商品を掲載



継続



- Vol.16 (2012年11月号) ~
特集面をEPO 東北の取組紹介へ
変更

冊子等

ESD テキストブック
パートII
広げよう東北の環境力
ESD つながる事例集



3.11 あの時
2011 年版



運営第3期

H25 (2013) 年度

H26 (2014) 年度

H27 (2015) 年度

ウェブサイト等

サイトリニューアル



7月16日

Web-site 障害発生

不正な改ざんを確認
→対応、対策協議
→サーバー初期化

メールマガジン

・月2回配信へ

6月14日
オフィス移転

- ・リーフレット改訂
- ・各種表示の改訂



サイトの新規構築

スタッフが構築していた体制を見直し、専門業者へ依頼



- ・3.11 あの時 2015 年版
レポート配信開始



機関誌

- ・特集面を取材記事の掲載に変更



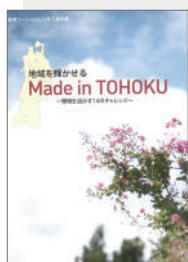
冊子等

3.11 あの時
2012 年版



◆ 3.11 あの時
2011 年版 増刷

3.11 あの時
2013 年版



環境ソーシャル
ビジネス事例集
地域を輝かせる
Made in TOHOKU
～環境を活かす
14 のチャレンジ～

3.11 あの時事例集
—中間支援組織
1 年間の後方支援
活動の記録—

EPO 東北 6 年間の
運営業務 総括
運営第 2 期～第 3 期



I -3. 情報発信の記録

運営第4期

H28（2016）年度

H29（2017）年度

H30（2018）年度

ウェブサイト等

東北地方 ESD 活動支援センター
 ・ウェブサイト開設（9/1）
 ・リーフレット作成
 ・封筒改定



機関誌

・表紙をマイナーチェンジ
 ・東北6県トピックス
 デザイン変更



・特集面を寄稿記事に変更



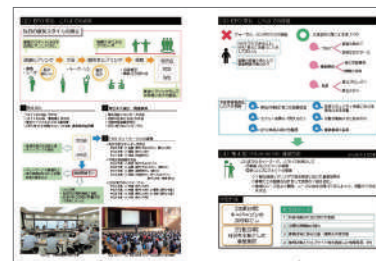
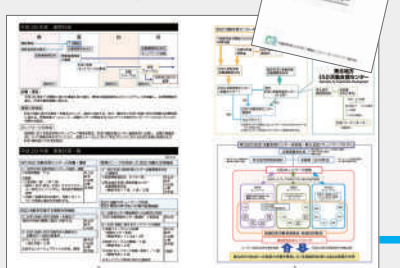
冊子等

3.11 あの時
 教訓事例集

EPO 東北
 業務報告書の
 ビジュアル化



東北ESDセンター
 業務報告書の
 ビジュアル化



運営第5期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

ウェブサイト等

メールマガジン

- ・リニューアル（9月配信号から）
EPO 東北、東北 ESD センターからの情報を掲載

リーフレット改訂

- ・EPO 東北、東北 ESD センターのリーフレットを一本化



EPO 東北ウェブサイト

- ・レンタルサーバーのPHPバージョンアップに伴うシステム全般の改修
- ・サイトリニューアル（レスポンス対応）

東北 ESD センターウェブサイト

- ・全国センターへ更新依頼を行う体制から、東北 ESD センター内で更新作業ができる体制への移行

メールマガジン

- ・レンタルサーバーのPHPバージョンアップに伴いメールマガジン配信に不具合が発生（11月）
- ・配信システムの見直し

オンライン会議対応

- ・Web 会議システム、設備の導入



機関誌

- ・紙面リニューアル
- ・8 ページ→16 ページへ
- ・年2回発行→年1回発行へ



冊子等

SDGs 紹介チラシの作成



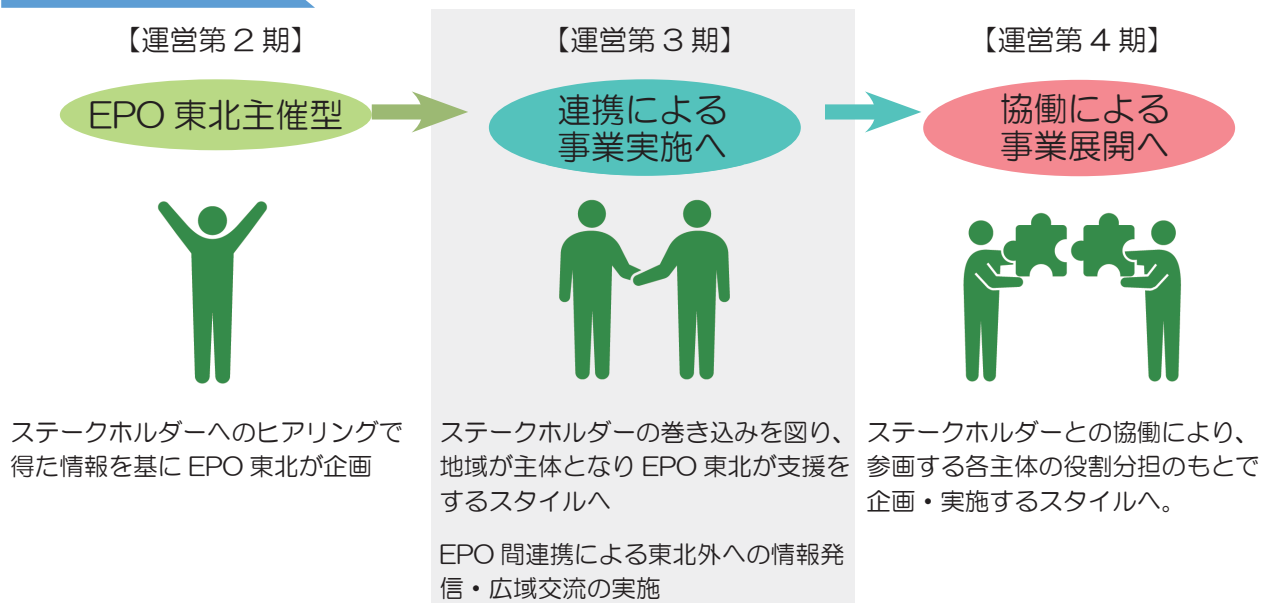
SDGs 紹介子ども向けチラシの作成



業務報告書の一本化

I -4. 総括

事業スタイルの変化



地域開催・交流会スタイルの定着

手法の試行



EPO 東北主催型から、キーパーソンを招致した交流会の試行

交流会形式の定着

- ・仙台開催から地域開催へ変化
- ・地域の団体が主体的に参画

ステップアップ

- ・キーパーソンの主体性が増し、協働による交流会開催へ
- ・新たなワークショップ手法の試行

地域開催・交流会形式で得られた効果

①活動の活性化

課題を共有し、解決に向けた議論を行うことが刺激となり、モチベーションの向上や活動の底上げにつながった。

②ゆるやかなネットワーク

継続開催することで顔の見える関係ができ、団体同士の連携が生まれるなど県境を越えたゆるやかなネットワークが形成できた。

③主体性の向上

ステークホルダーがアウトカムを認識して主体性が増し、自分達も企画運営に携わる姿勢へと変化した。



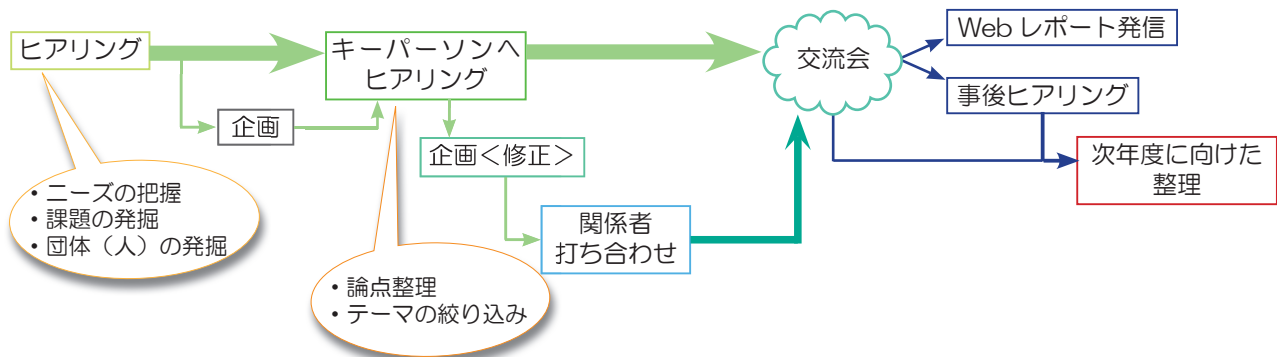
第 5 回みちのく薪びと祭り in 秋田梅内 分科会 (2018/11/3)

《ヒアリングで得た参加団体からのコメント等》

- ・交流会の開催をきっかけに地域のネットワークが強固になり、新たな団体が立ち上がるなど地域活性化に大きく貢献した。
- ・開催準備を通して新たな団体の掘り起こしができ、地元団体同士のマッチングの機会になっている。
- ・他の団体と関わる中で自分の団体の強みや弱みを見つめ直し、視野を広げる機会になっている。
- ・地域開催をきっかけに地域住民に活動の認知が広がり、活動への参加メンバーが増えた。
- ・良い刺激になり、勇気づけられ、自分たちも頑張ろうという気持ちになることがいつも大きな成果だ。
- ・東北の各団体の現場を回りながら交流と議論を深めることが、お互いの活動を継続させるための大きなモチベーションになっていると感じる。

訪問ヒアリングスタイルの定着

平成 22（2010）年度から試行錯誤を繰り返し、訪問ヒアリングを通して地域と向き合う EPO 東北ならではのスタイルが定着した。EPO 東北が実施したい事業を展開するのではなく、地域の困りごとや課題、応援してほしいことに耳を傾け、その奥にある課題の本質を掘り起こすことを心がけている。運営第 3 期以降は、ヒアリングを通じて築いたネットワークから講演やワークショップの依頼、事業の相談を受けることが増えている。



訪問ヒアリングで 得られた効果

①ネットワーク拡大

積極的に現場へ行くことで地域の人に出会えること、人づてのご紹介もありネットワーク広がった。



②関係性の構築

Face to Face で話をすることで顔の見える関係性が構築できた。EPO 東北のネットワークの礎となっている。



③ニーズに合った企画

必要とされていること、求められていることを探ることが、地域のニーズに合致した企画の実施につながった。



運営第 5 期に向けて EPO 東北、東北 ESD センターに期待される役割

1. 人や情報をつなぐ
2. ローカルな取組を取り上げていく
3. 各地域の連携・交流の支援
4. 活動への支援
(講師や人材の派遣、事業の共催・協力)
5. 取組情報の発信



運営第5期

令和元年～3年度（2019～2021年度）

令和2年度事業計画書

Ⅱ -1. 運営第5期 中期事業計画

課題

東北ならではの

- ・東北ならではの環境活動の促進
- ・東北らしい協働事例の創出

中間支援機能の強化

- ・1 団体ではできないことの支援
- ・異分野の橋渡し

業務の効率化

- ・EPO 東北業務と東北 ESD センター業務

期待される役割

情報提供

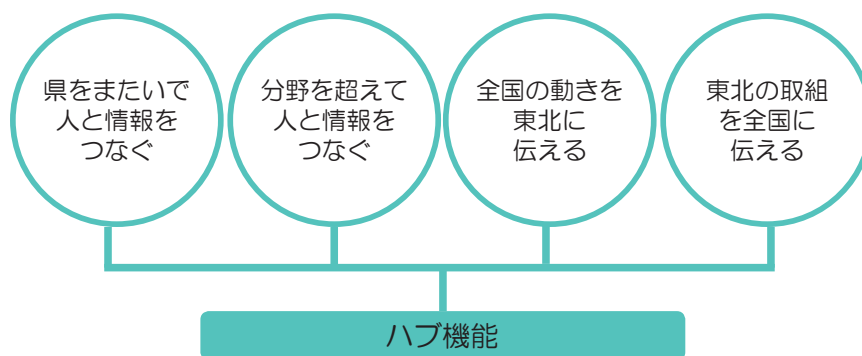
- ・東北の取り組み事例の発信
- ・他の取組事例の情報提供

協働の実践

- ・東北×他ブロックの広域連携
- ・活動の具体的な支援

場づくり

- ・相互交流と学びあいの場づくり



EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



**東北地方
ESD 活動支援センター**
Education for Sustainable Development

EPO 共通の事業

- 伴走型支援業務
 - ・同時解決事業
- 環境政策に係る支援等

EPO 東北オリジナル事業

- 交流会型事業
 - ・みちのく薪びと祭り
 - ・ビジターセンター交流会
- 東日本大震災
 - ・学びの発信

東北 ESD センター事業

- プラットフォームの形成
 - ・東北 ESD フォーラム
 - ・ESD ネットワーク会議
- ESD 活動への支援
 - ・講師・人材の派遣
 - ・事業の共催・協力・支援
 - ・広域連携による相互交流

行動目標

対話を主軸とした事業展開

Face to Face による関係者とのコミュニケーションに重きを置いて、各事業を展開する。対話の中でニーズやウォンツ、地域の課題の把握に努め、企画の参考とする。

運営目標

「アイデアを広げる」会議体制の構築

各会議の運営手法を見直し、委員と共に事業の成果、課題を振り返り、次に向けた整理とアイデアを議論するフレキシブルな会議体制を構築する。

成果目標

東北モデルの創出

運営第1期～4期にかけて、行政や企業との連携が課題となってきた。運営第5期では新たなステークホルダーを加えたネットワークの拡充を目指し、多様な主体との事業連携・協働を進め、東北モデルを創出する。

I - 2. 令和 2 年度事業計画

業務の目的

本業務は、東北環境パートナーシップオフィス（以下「EPO 東北」という。）が環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また、東北 ESD センターが国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、全国の EPO と地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）のネットワーク（以下「EPO ネットワーク」という。）を活用するとともに、東北地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及び ESD 活動等を活性化させることを目的とする。

業務の内容

EPO 東北運営業務

様々な主体による協働・連携の取組を通じた環境保全活動等を活性化するため、市民、NPO/NGO、行政、企業等との連携を確保しながら、持続可能な社会の実現に向けた① SDGs をツールとした協働による地域における環境・社会課題の同時解決の推進、②環境教育・ESD の推進、③環境政策の支援等を行い、これらを担う地域の中間支援機能の強化を促進する。また、これらの活動状況等について、メールマガジン、ホームページ等を通じて発信する。

（1）基本業務

① Web サイト等を活用した情報発信、PR

EPO 東北の Web サイト等を活用し、イベント等の情報のほか、関係機関の動き、公募・助成金情報等を地域内外に発信する。また、内容に応じ、広報誌の作成やメーリングリスト等の活用による情報発信も行う。

②相談対応・対話の場作り

環境教育等促進法第 19 条第 1 項に基づく国の拠点として、各種情報紹介及び相談に対応し、必要に応じて助言や各種会合への参加等を行う。また、必要に応じてパートナーシップ形成のための対話の場作り、過去に対応した案件についてのフォローアップを行う。

③全国事業に関わる業務

各地方 EPO 間の連携強化と情報共有を目的とした全国 EPO 連絡会議へ出席する。
また、上記業務の進行管理や連絡調整の目的で開催される会合等に必要に応じて出席する。

④施設の維持・管理

EPO 東北の設備等を維持・管理するために必要な業務を行う。また、民間団体等が環境保全に関する情報交換や交流を図るため、会議スペースの貸出、他団体の発行する機関誌等の配布スペースの確保、関連図書の貸出等を行う。

（2）地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

①地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務

日常的なサポート、伴走支援、会議運営サポート、人材育成の支援、採択団体が作成する地域の資源を活用した構想図を通じて行う課題整理・協働取組の各課程の支援、事業発掘のプロセス支援などを行う。

②地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等の支援業務

各活動の地域で開催される意見交換会の後方支援、当日の対応等（進行、議事録の作成等）については、採択団体及び東北地方環境事務所と相談・協議し実施する。

また、ヒアリングシートによるヒアリングを実施し、各種相談対応・情報の受発信や今後の支援等メニュー拡大の糸口をさぐる。

③地域循環共生圏の支援に向けた情報交換会等

環境省主催の地域循環共生圏の支援に向けた情報交換会等に出席する。

④地域循環共生圏に関するヒアリングの実施

地域での地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）について把握し、ヒアリングを行い、EPO 東北とのネットワークを形成する。

⑤森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

地域循環共生圏の国民運動である森里川海と地域経済を繋ぐことを狙いとし、日本の資産である自然環境と地域社会の接点となる拠点（自然公園等施設）を地域の自然資源のワイドユース共創に向けた拠点とするため、地域の一次産業・三次産業、さらに地域の自治体、企業などを巻き込んだ情報交換会を実施する。

1) 環境学習施設等との会議の開催

森里川海をテーマとした普及啓発、情報発信等について、東北管内のビジターセンター、自治体等を対象にした情報交換会を行い、生物多様性に関する普及啓発や情報発信等の強化を図り、施設間の連携を促進する。

2) パートナーシップ団体情報交換会

多様な主体との連携の促進を図ることを目的に、地域の窓口となるパートナーシップ団体を対象に、森里川海と地域経済を繋ぐことをテーマとした情報交換会を開催する。

※パートナーシップ団体

EPO 東北では円滑に事業を推進するために、東北各県の窓口となる団体との連携・協力関係を築いており、総称して「パートナーシップ団体」と呼んでいる。

【青森県】NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター

【岩手県】NPO 法人環境パートナーシップいわて

【宮城県】公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

【宮城県】NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター

【宮城県】NPO 法人環境会議所東北

【宮城県】仙台広域圏 ESD・RCE

【秋田県】NPO 法人環境あきた県民フォーラム

【秋田県】一般社団法人あきた地球環境会議

【山形県】NPO 法人環境ネットやまがた

【福島県】NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク

⑥地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

自治体、NPO、企業、経済団体、地域の金融機関等が参加する情報交換会等を開催し、地域循環共生圏創造の推進主体となりえるパートナーシップの形成を促進する。

（3）拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

①みちのく薪びと祭り

持続可能な社会の実現に向け、東北の特色を生かした環境活動の促進を目的とするネットワークの創出を目指し、東北地域内で主体的に活動するキーパーソンと先駆的な取組を行っている団体等と交流を行い、東北各地域における環境活動の強化を目的に実施する。

また、東北地域における持続可能な社会の実現に向けたキーパーソン会議を開催する。

②福島県ヒアリング

東日本大震災復興活動及び環境活動を行っている者の連携強化に向けたヒアリングを行い、交流の場づくり及び情報発信の強化へ繋げていくことを目的に実施する。

（4）事業検討委員会の開催

本業務の実施に当たっては、NPO、行政、企業等幅広い関係者の参画を得る必要があるため、「EPO 東北事業検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置し、年2回程度開催、業務実施計画（案）や事業方針等について協議する。

EPO 東北業務を推進するにあたり東北地方 ESD 活動支援センターとの業務連携が不可欠なことから、事業検討会議を東北地方 ESD 活動支援センターの企画運営委員会と合同で開催しお互いの状況把握に努める。

I - 2. 令和 2 年度事業計画

東北地方 ESD 活動支援センター業務

多様な主体が参画・連携して ESD 活動に取り組むための地域の活動拠点形成を推進・支援するとともに、実践者の声を踏まえ、情報の一元的な発信、ネットワークの構築、地域の活動支援等を行い、東北地方における ESD 活動の促進・活性化を図る。

(1) ESD 活動に関する相談・支援窓口

地域の ESD 活動実践者・実践団体（学校や社会教育施設、NPO/NGO、企業等）等（以下「ESD 活動実践者等」という。）から、ESD 活動を実践するに当たって相談や支援の要請があった場合は、適切に対応する。

(2) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等

ESD 活動実践者等に対し、東北管内の ESD 活動に関する情報を収集し発信するとともに、ESD 活動に関するプログラム・資料等を収集し、求めに応じて提供する。

(3) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会の運営等

ESD の推進に取り組んできた自治体・企業の担当者、学識経験者、地方で環境保全活動に取り組んでいる専門家からなる東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会（以下「企画運営委員会」という。）を設置し、地域の ESD 活動実践者・実践団体（学校や社会教育施設、NGO/NPO、企業等）等の支援や地域における ESD の普及・啓発等の方策について検討する。

東北 ESD センター業務を推進するにあたり EPO 東北業務との業務連携が不可欠なことから、企画運営委員会を EPO 東北の検討委員会と合同で開催しお互いの状況把握に努める。

(4) 全国センター開催業務への出席及び対応

全国センターと地方センターが協力して ESD 活動を推進していくために、ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会に出席し、地域の実情や課題等を持ち寄り、意見交換を行う。

(5) ESD 活動に関するネットワークの構築

地域の ESD 活動実践者・実践団体（学校や社会教育施設、NPO/NGO、企業等）等がお互いの活動情報の共有など相互に交流できる機会を提供するなど、地域間・各主体間のネットワークの構築を図る。

① ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席等

全国センターが主催する ESD 推進ネットワーク全国フォーラムについて、情報や資料の提供等の協力を行うとともに、これに出席し各地域の ESD 実践者との交流を図る。

② 東北 ESD / SDGs フォーラムの開催

地域における多様なステークホルダーが一堂に集い、地域ネットワークの形成を構築する機会として、東北 ESD / SDGs フォーラムの開催を開催する。

③ 地域 ESD 活動推進拠点※の登録及び支援

地域 ESD 拠点の登録を促進するために、ESD 活動実践者等に対する情報発信や調整等を行うとともに、登録手続においては登録審査を行う全国センターに対する情報提供等を行う。また、地域 ESD 拠点との間で情報共有やイベント協力等の連携を図り、地域における ESD 活動の支援を実施する。

※地域 ESD 活動推進拠点

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでる。そうした地域の ESD を支援する組織や施設に、「地域 ESD 活動推進拠点」としてご登録いただく仕組み。地域 ESD 活動推進拠点には地方センターや他の地域 ESD 拠点とも連携・協働して、ESD の活動や学びを深めること、学びの機会や場を広め、担い手を増やしていくことが期待されている。

■地域 ESD 活動推進拠点 120 件（全国）

■東北地方 地域 ESD 活動推進拠点 11 件（2020 年 4 月 10 日時点）

- 1.【青森県】NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター
- 2.【岩手県】NPO 法人環境パートナーシップいわて
- 3.【宮城県】公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
- 4.【宮城県】公益社団法人仙台ユネスコ協会
- 5.【宮城県】気仙沼 ESD/RCE 推進委員会
- 6.【秋田県】一般社団法人 あきた地球環境会議
- 7.【山形県】NPO 法人環境ネットやまがた
- 8.【福島県】NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
- 9.【福島県】福島工業高等専門学校
- 10.【福島県】只見町教育委員会
- 11.【福島県】いわきユネスコ協会



④ ESD ネットワーク会議

地域ネットワークの代表者や各セクターの代表者等が地方 ESD センターへの情報提供・提言等を行うとともに ESD 活動の情報交換等を行うことによって、様々な主体間の連携を図り、東北 ESD ネットワークの構築を図る。開催にあたっては ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアムと連携し、企画内容等について協議の上で進める。

⑤ ESD 推進・地域研修会

青森県の地域 ESD 活動推進拠点の活性化と拠点間の連携による地域からの ESD 推進の底上げを図るため、昨年度に引き続き研修会を開催する。開催にあたっては青森県の地域 ESD 活動推進拠点と協働で企画運営を行う。

⑥ その他

東北地方における ESD 推進のための一元的なネットワークを構築するため、専門家や関係する団体・組織の代表者等との連携・協力を図りながら上記業務を実施する。

Ⅱ -3. 令和 2 年度事業予定一覧

事業名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
EPO 東北			全国 EPO 連絡会①	事業検討委員会①	
地域循環共生圏の創造に資するための推進業務					
地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務	採択時ヒアリング	→	《実施計画の提出》	《キックオフ》	定期ミーティング（石巻） 定期ミーティング（三瀬）
地域循環共生圏の支援に向けた情報交換会				情報交換会①	
地域循環共生圏に関するヒアリングの実施					
森里川海推進ネットワーク形成会合の開催					企画調整 →
①環境学習施設等との会議	連絡調整	→	※必要に応じて関係団体への訪問		ヒアリング
②パートナーシップ団体情報交換会					
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	東北地方環境事務所、東北財務局等関係機関と調整図りながら打ち合わせ×3回、意見交換会×2回を実施				→
拠点間連携による地域内の中間支援機能強化					
みちのく薪びと祭り	ヒアリング	→	連絡調整	→	キーパーソン会議①
福島県ヒアリング					
東北 ESD センター			ESD センター連絡会①	企画運営委員会①	
ESD 活動に関するネットワークの構築					
東北 ESD / SDGs フォーラム					企画調整 →
ESD ネットワーク会議					企画調整 →
ESD 推進・地域研修会	ヒアリング	→		関係者ミーティング	企画調整 →
その他会議等	《随時》 ・相談対応 ・事業連携協力 ・情報受発信	事業運営会議①		事業運営会議②	

EPO 東北運営業務

（１）基本業務

- Web サイト等を活用した情報発信、PR
 - Web サイト
 - メールマガジン（月 2 回配信）
 - 機関誌 EPO 東北通信（年 1 回）
- 相談対応・対話の場づくり・過去案件のフォローアップ
- 全国事業に関わる業務
 - 全国 EPO 連絡会議（年 2 回）
- 施設の維持・管理

（２）地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

- 地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務
 - 【令和 2 年度採択団体】2 件
 - 一般社団法人 Reborn-Art Festival（宮城県石巻市）
 - 三瀬地区自治会（山形県鶴岡市）

【令和 2 年度（継続）支援チーム派遣団体】

NPO 法人仕事人倶楽部（北岩手地域）

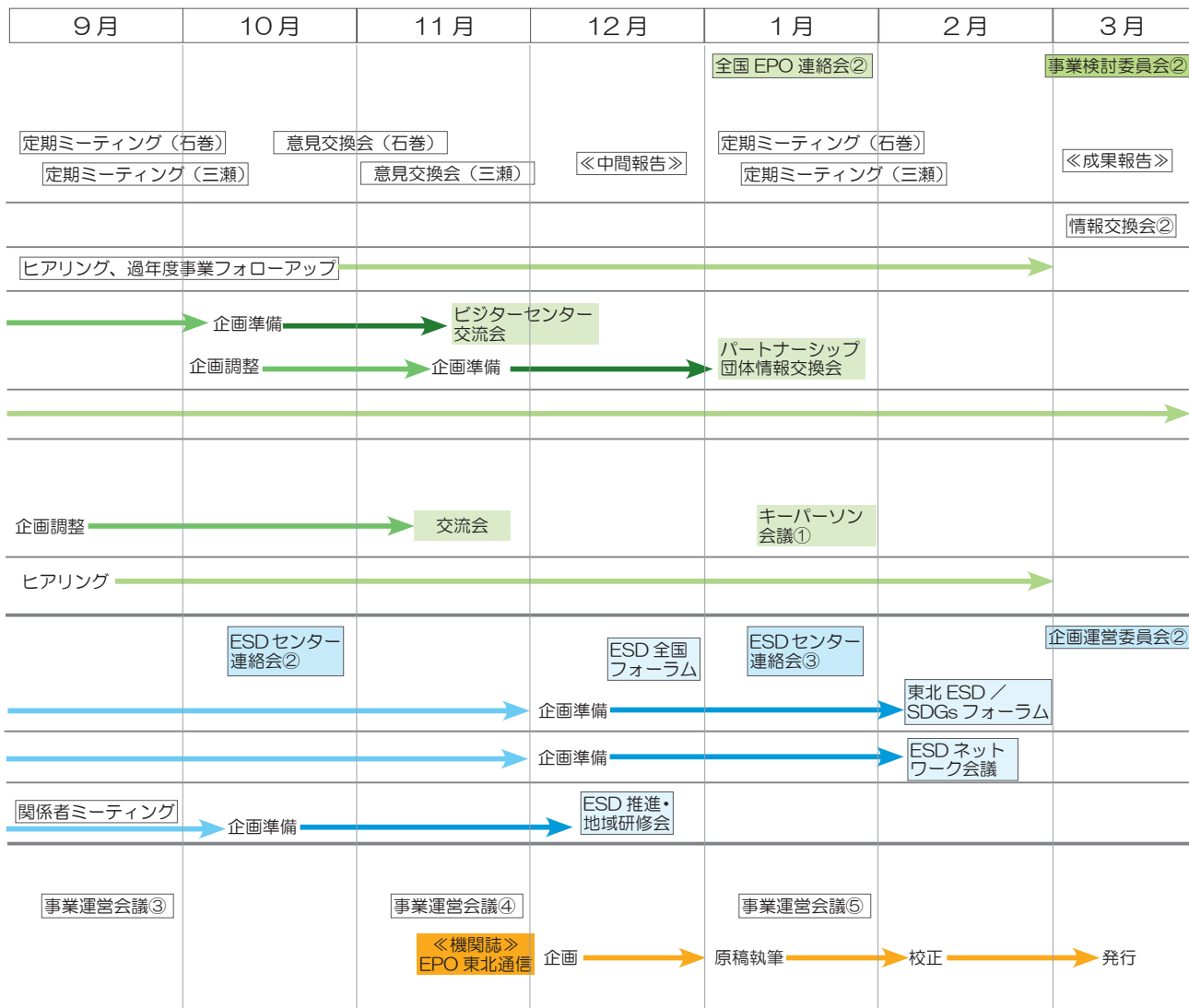
【過年度採択団体】

（一社）サスティナビリティセンター（宮城県南三陸）
会津森林活用機構、会津地域森林資源活用事業推進協議会（会津地域）

2）地域循環共生圏プラットフォーム

意見交換会の支援業務

- ①採択時ヒアリング
- ②意見交換会（1 団体×1 回）
- 3）地域循環共生圏の支援に向けた情報交換会
 - 環境省主催情報交換会（2 回）
- 4）地域循環共生圏に関するヒアリングの実施
 - 東北管内 2 団体程度
- 5）森里川海推進ネットワーク形成会合の開催
 - ①環境学習施設等との会議の開催（1 回）
 - ②パートナーシップ団体情報交換会（1 回）



EPO 東北運営業務

- 6) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業
- ① 東北地方環境事務所、東北財務局等関係機関との打ち合わせ（3 回程度）
 - ② 意見交換会（2 回）
- （3）拠点間連携による地域内の中間支援機能強化
- 1) みちのく薪びと祭り
 - ① 交流会（1 回）
 - ② キーパーソン会議（2 回程度）
 - 2) 福島県ヒアリング
ヒアリング 団体 2 団体程度
- （4）事業検討委員会の開催
事業検討委員会（年 2 回）

東北地方 ESD 活動支援センター業務

- （1）ESD 活動に関する相談・支援窓口
- （2）ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等
 - ① Web サイト
 - ② メールマガジン（月 2 回配信）
 - ③ 機関誌 EPO 東北通信（年 1 回）
- （3）企画運営委員会の運営等
企画運営委員会（年 2 回）
- （4）全国センター開催業務への出席
ESD 活動センター連絡会議（年 3 回）
- （5）ESD 活動に関するネットワークの構築
 - 1) ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席（1 回）
 - 2) 東北 ESD / SDGs フォーラムの開催（1 回）
 - 3) 地域 ESD 活動推進拠点の登録及び支援
 - 4) ESD ネットワーク会議（1 回）
 - 5) ESD 推進・地域研修会（1 回）

運営第 5 期
令和元年～3 年度（2019～2021 年度）

令和 2 年度 事業報告

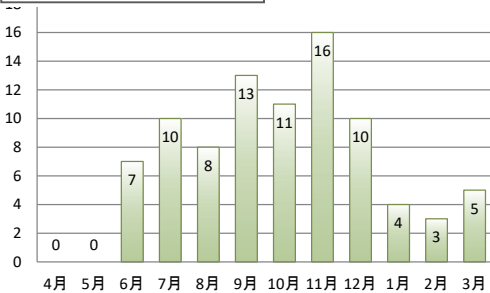
	EPO 東北	東北ESDセンター
重点事業と成果	【共通】 コロナウィルス感染症へ対応するため、2020年4/7に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言が出され、4/16に対象が全国に拡大された。5/25に全国で解除されるまで事業の見通しが立たない状況が続き、5/25以降も対面によるヒアリングの自粛に迫られた。これまで対面によるヒアリングを重視し、地域の課題やニーズの把握に努めてきたが、世の中の常識が変化することでこれに対応する仕組みについて事務局内で議論を重ね、オンライン会議を実施する設備及び体制を整えた。遠方の方は移動時間を気にせずリモートで会議に参加できる、担当者以外のスタッフも一緒に会議に参加できる、アーカイブで議論を共有できるなどのメリットがあり、一定の成果を得ることができた。 (1) 再生可能エネルギー交流会 「みちのく薪びと祭り」が次の展開へと進むために、広島県の事例に学び、議論を深める視察および意見交換の場を設けた。これにより「みちのく薪びと祭り」の役割と意義が整理され、地域循環共生圏の概念を取り入れながら今後の方向性について合意形成を図ることができた。 (2) 地域循環共生圏 地域の多様な主体と連携しながら環境や社会の課題を解決し、地域で循環する経済のあり方を考えるシーズがあることが確認できた。「ESG 金融」をテーマに開催したフォーラムでは、会場参加とオンライン参加を含めて290名を超える参加があり、地域の金融機関等新たなステークホルダーに向けて発信を行うことができた。	(1) 東北ESD / SDGs フォーラム 専門家の協力を得て、一方的な配信ではなく登壇者同士の対話型によるオンライン配信という新しいスタイルのフォーラムを開催することができた。東北以外の地域からも参加があり、広域性のある情報発信の可能性を見出すことができた。 また、場面転換の時間を利用してCM動画を配信する試みを行うにあたり、ネットワークを活用して東北各地の関係者から協力を得ることができた。学校、行政、教育施設、NPO、民間団体等、多様なネットワークを広げてきた手応えを感じることができた。 (2) ESD 活動に関する相談・支援窓口 SDGs（持続可能な開発目標）への関心の高まりとともに東北ESDセンターへ問合せが増え、これまで関係のなかった団体、企業、学校等との連携や協力が多く生まれた。 青森県においては過年度に実施した「ESD / SDGs 勉強会」をきっかけにネットワークが広がっており、青森県内での連携につなげることができた。
課題	【共通】 密なヒアリングができない中でもオンライン会議を導入して事業を進めることができた一方で、対面によるヒアリングと同じようにニーズを把握することが難しかった。対面によるヒアリングでは雑談の中からさまざまなニーズやシーズ、関係者の本音を引き出すことができたが、オンライン会議では互いに要点のみを簡潔に話すため、雑談から話題が広がらない傾向がある。共感性やニーズとの合致、関係者との意思統一は事業の満足度を左右することから、オンライン会議・配信によるメリットとデメリットを踏まえて、新たな手法を模索する必要がある。 (1) 地域循環共生圏 地域資源を最大限活かしながら自立・分散型の社会形成に取組み、それぞれの地域の特性に応じて他地域と資源を補完し支え合うことにより地域の活力が最大限発揮されることを目指す考え方であることから、環境分野に留まらず新たな分野のステークホルダーの巻き込みとネットワーク構築が課題となる。特に「ESG 金融」をテーマに経済界や金融機関とのパートナーシップの模索が課題となる。	(1) 地域ESD活動推進拠点と連携したモデルづくり 地域ESD活動推進拠点(以下、「地域ESD拠点」と東北地方ESD活動支援センターの連携のあり方が課題となっており、本年度はモデル的に青森県、秋田県で事業連携に取り組んだ。継続したアプローチを検討するとともに、他の地域ESD拠点とのパートナーシップによる活動の底上げと、地域におけるESD活動の推進と波及が課題となる。 ESD / SDGsに関する相談が増えていることから、地域ESD拠点とも連携しながら対応できる仕組みや体制づくりの検討が必要となる。

Ⅲ -2. 出張・外出のべ日数

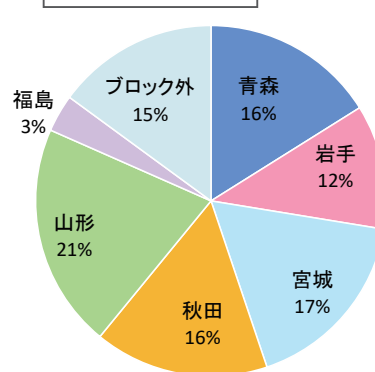
コロナウイルス感染症拡大防止の観点から4月～5月期は各所で在宅勤務が導入され、不要不急の外出が自粛されたことからEPO 東北および東北地方 ESD 活動支援センターでも外出を控え、オンラインでの会議・打合せ対応を行った。6月以降は対面による会議・打ち合わせとオンライン会議を併用しながら事業に取り組んだ。

のべ87日

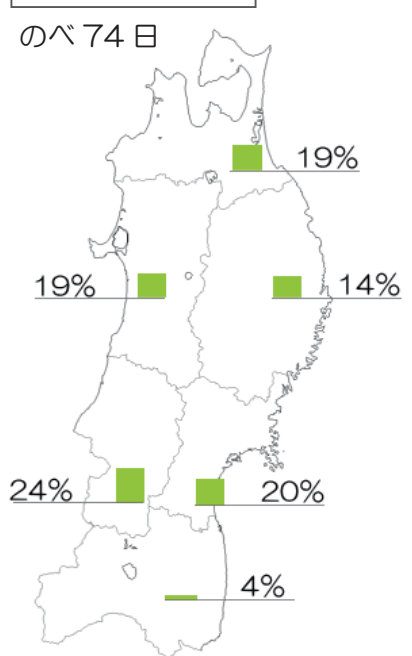
■月別のべ出張・外出



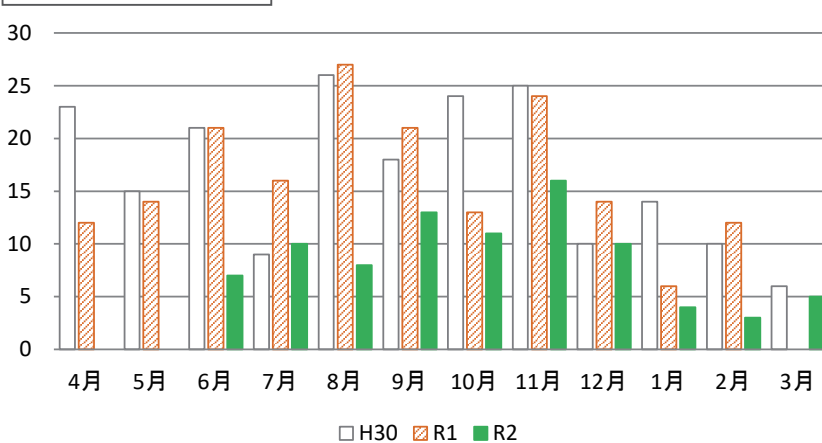
■地域別訪問状況



■東北6県訪問状況



■3年間における比較



■オンライン会議等

のべ135件

- ・会議 71件
- ・打合せ 40件
- ・研修会 7件
- ・催事等参加 17件



訪問ヒアリング (9/8)



みちのく薪びと祭りヒアリング (6/3)

Ⅲ -3. 事業実施一覧

(1) 東北環境パートナーシップオフィス事業

1) 基本業務

① Web サイト等を活用した情報発信、PR

- Web サイト
 - …サイトリニューアル
- メールマガジン（月2回配信）
 - …配信システムの見直し
- 機関誌 EPO 東北通信（年1回）

② 相談対応・対話の場づくり

- 相談件数 34 件 ※対話の機会数：情報収集や合意形成等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等
- 対話の機会数 120 件
- 共催事業 0 件
- 活動支援 13 件
- 後援 0 件

③ 全国事業に関わる業務

- 全国 EPO 連絡会議 6/25、8/5、1/15、1/19
- EPO 受託者会議 4/14、6/30、1/19
- EPO 研修会 6/30
- EPO カタログ合宿（EPO ネットワーク事例集作成会議） 11/9-11

④ 施設の維持・管理

2) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

① 地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務

- 地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務

採択：32 団体

	全体		東北
• 環境整備	新規	10 団体	1 団体
	継続	17 団体	1 団体
• 支援チーム派遣	7 団体		1 団体
	※うち 3 団体は環境整備と重複		
• 指標案検討モデル	1 団体		—

■支援対象：環境整備に取り組む活動団体

新規／三瀬地区自治会（山形県）

継続／一般社団法人 Reborn-Art Festival（宮城県）

■過年度団体のフォローアップ

（宮城県）一般社団法人サスティナビリティセンター（福島県）会津森林活用機構株式会社

- 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会の支援業務

…東北地区合同意見交換会 10/12-13

- 環境省主催の地域循環共生圏の支援に向けた情報交換会等への出席

…ミーティング 4/23、5/28、7/3、12/9

…第1回情報交換会（キックオフミーティング）

7/2-3

…情報共有会議 9/1

…全国検討会議 9/30

…中間報告会 12/8-9

…最終報告会 3/9-10

- 地域での地域循環共生圏に関するヒアリング

…海のビジターセンター・川のビジターセンター

8/12

…生活クラブ連合会 1/20

② 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

② -1 環境学習施設等との会議の開催

…東北地方ビジターセンター意見交換会 【中止】

…アンケートの実施

② -2 パートナーシップ団体情報交換会

…パートナーシップ団体情報交換会 9/11

③ 地域循環共生圏パートナーシップ

基盤強化事業

…地域循環共生圏 ESG 金融フォーラム 12/3

…東北財務局との情報交換 6/9、9/1、11/18

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

① 再生可能エネルギー交流会

…みちのく薪びと祭りキーパーソン会議

8/7、3/23

…薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北 11/14-15

② 福島県ヒアリング

- NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
- 裏磐梯ビジターセンター

5) 事業検討委員会の開催

- 事業検討委員会（年2回） 7/3、2/1



山形県東桜学高校国際理解講演会（8/25）

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター事業

1) ESD 活動に関する相談・支援窓口

- ・相談件数 55 件
- ・対話の機会数 87 件
- ・共催事業 7 件
- ・活動支援 14 件
- ・後援 3 件

2) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等

① Web サイト

※以下の媒体は EPO 東北と一本化して運用

- ②メールマガジン（月 2 回配信）
- ③機関誌 EPO 東北通信（年 1 回）

3) 企画運営委員会の運営等

- ・企画運営委員会（年 2 回） 7/3、2/1
- ・情報共有会 10/5

4) 全国センター開催業務への出席

- ・情報交換会 6/2
- ・全国センターによる地域センターヒアリング 6/12
- ・ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会 8/28、2/8

5) ESD 活動に関するネットワークの構築

① ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席

- ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 12/19

②東北 ESD フォーラムの開催

- ・東北 ESD/SDGs フォーラム 2020 1/31

③地域 ESD 活動推進拠点の登録及び支援【東北地方】登録数 14 件

④ ESD ネットワーク会議

- ・ESD ネットワーク会議 2/20

⑤ ESD 推進・地域研修会

- ・八戸工業大学第二高等学校・青森高校 合同意見交換会 8/8
- ・（一社）あきた地球環境会議 SDGs チャットルーム 10/31、2/6
- ・青森県階上町立道仏小学校 SDGs 授業 11/5
- ・青森県内キリバス講話
- …八戸工業大学第二高等学校 1/13
- …青森市立東中学校 2/9

6) その他

関係する団体・組織との連携

- ① ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム、東北地方環境事務所との連携会議 6/18、9/4、10/21、12/14、1/7、2/5

(3) 東北地方環境事務所との協働、その他企業等との協働

1) 東北地方環境事務所との協働

- ・事業運営会議（年 5 回） 6/29、8/24、10/19、11/26、1/12

2) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との協定に基づく連携

- ・地球環境基金主催 EPO 連絡会 8/27
- ・2021 年度地球環境基金助成金説明会（東北地区） 10/29

3) GreenGift 地球元気プログラム

第 4 期（2019 年 10 月～2022 年 9 月）

- ・オンライン会議 5/12
- ・全国振り返り会議 12/7



青森県階上町立道仏小学校 SDGs 授業（11/5）



GreenGift 親子でカヌー！&水辺の安全教室 岩手（9/13）

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

１）基本業務（仕様書番号Ⅳ -1.-（１））

① Web サイト等を活用した情報発信、PR（仕様書番号Ⅳ - 1.-（１）- ア）

●情報収集

これまで対面による情報収集に努めてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から出張・外出を自粛した。このためオンラインでの情報共有会の開催を試行し、今後の事業連携に向けた情報収集に取り組んだ。

ウェブサイト

①レンタルサーバーのPHP 提供バージョン移行

目的：セキュリティの強化

バージョンの移行：

PHP7.2 の終了／2020 年 11 月

PHP7.4 の提供／2020 年 8 月～

※ PHP：Hypertext Preprocessor。動的なコンテンツの作成に向いているプログラミング言語。お問合せフォームを利用した連絡に対して「お問い合わせありがとうございます」などの自動返信する対応を PHP で実装することが可能となる。

② EPO 東北ウェブサイトにおける対応

PHP7.4 に対応したプログラム改修：

10 月 20 日対応完了

※ EPO 東北のウェブサイトは契約業者が独自に作成・構築した CMS を使用している。

※ CMS：Contents Management System。Web コンテンツの作成や管理を手軽に行うことができるシステム

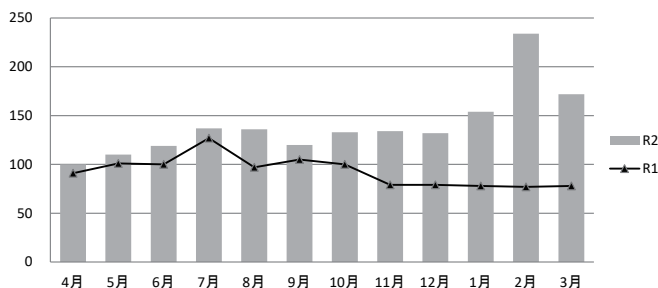
③改修に伴うウェブサイトリニューアル

レスポンス対応へ改修：3 月 8 日完了

※レスポンスデザイン：PC、タブレット、スマートフォンなど様々な機器に応じて、各デバイスの画面サイズに最適な表示に切り替えるデザイン

ウェブサイトアクセス数 1 日平均 140.1 件

ページビュー数



機関誌

EPO 東北および東北地方 ESD 活動支援センターの活動を PR する媒体と位置付け、令和 2 年度に実施した事業のレポートを掲載した。

タイトル	EPO 東北
内容	①巻頭特集 「環境で地方が元気になる時代がやってきた！地域循環共生圏」 ② EPO 東北事業紹介 ③東北 ESD センター事業紹介 ④他団体協力事業
発行部数	1,000 部
発行	年 1 回（R3.3 月）

●情報発信

使用しているレンタルサーバーのバージョンアップに伴い、ウェブサイトのリニューアルを行った。この影響でメールマガジンの配信システムに不具合が生じたことから見直しを行い、新たに外部サービスを利用することとした。

メールマガジン

タイトル	東北えぼめーる通信
内容	(1) EPO 東北からのお知らせ (2) 東北 ESD センターからのお知らせ (3) 環境省からのお知らせ (4) 助成金・募集情報
登録者数	1,200 名（前年比 +31 名）（前年 1,169 名）
配信	月 2 回、臨時号あり

①配信の不具合発生（11/11 号）

EPO 東北ウェブサイトの CMS を利用して配信を行っているため、PHP バージョン移行に伴い不具合が発生した。

②配信対応

12/10 号：業者が代理配信

12/16 号～：再送信ボタンを設置、配信状況の記録が出力されるよう配信システムの改修対応を行った。

③体制の見直し

現状では問題が発生するため外部サービスの利用を検討し、年度内に移行した。



スタッフミーティング（10/21）

●事業総括

【成果】

- 現在のウェブサイトを開設してから 7 年が経過している。スマートフォンやタブレット対応のウェブデザインへの移行が課題となっていたため本年度はこれに対応し、レスポンス対応のサイトへリニューアルを行った。
- メールマガジンの登録者数が増えていることから、今後の増加に備えて配信体制を移行した。

【課題】

- オンラインでの会議やセミナーが日常的に活用されるようになり、情報収集のあり方が変容した。ニーズに合った情報収集および発信ができるよう、EPO 東北の情報受発信の工夫と変容が課題となる。

②相談対応・対話の場づくり（仕様書番号Ⅳ-1.-（1）-イ）

共催 なし

活動支援・協力

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	6/25	秋田県 秋田市	秋田市立秋田商業高等学校	エコロジカルビジネス班「SDGs 学習会」
2	7/17	Web 開催	尚絅学院大学	講義「環境と社会」
3	7/30	山形県 山形市	山形県環境エネルギー部	令和2年度第1回山形県環境教育推進協議会
4	8/25	秋田県 秋田市	秋田クラーク高等学院	総合学習 SDGs 学習会
5	9/19	山形県 山形市	NPO 法人環境ネットやまがた	山形県地球温暖化防止活動推進員候補者研修
6	9/25	宮城県 仙台市	エコアクション21 中核地域事務局	東北ブロックエコアクション21 力量向上研修会 エコアクション21 認証・登録10年継続事業者様 表彰・記念式典
7	11/25	宮城県 仙台市	宮城県森林組合連合会	SDGs 勉強会
8	12/5	秋田県 大仙市	秋田県地球温暖化防止活動推進 センター（認定NPO 法人環境あ ぎた県民フォーラム）	気候変動と SDGs
9	12/12	秋田県 由利本荘市		
10	3/13	Web 開催	四国 EPO	第6回四国環境パートナーシップ表彰 表彰式 基調講演「The future we want ＝私たちが望む未来。キリバスからのメッセージ＝」
11	3/16	秋田県	認定NPO 法人	SDG s セミナーⅠ（導入編）
12	3/17	秋田市	環境あぎた県民フォーラム	SDG s セミナーⅡ（活用編）
13	3/20	Web 開催	全国ユース環境ネットワーク 事務局（独立行政法人環境再生 保全機構 地球環境基金部）	東北地区 高校生 SDGs オンラインセミナー

後援 なし

催事・会議等参加

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	11/19	宮城県 大崎市	株式会社ウェスタ・CHP	VESTA プロジェクト第一期完成お披露目会
2	12/1 -28	秋田県 秋田市	秋田市地球温暖化防止活動推進 センター	cool choice フォトリンクステーション



エコロジカルビジネス班「SDG s 学習会」(6/25)



セミナー「気候変動とSDGs」(12/12)

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

１）基本業務（仕様書番号Ⅳ -1.-（１））

②相談対応・対話の場づくり（仕様書番号Ⅳ - 1.-（１）- イ）

委員協力

No.	主催	会議名
1	宮城県環境生活部環境政策課	ダメだっちゃ温暖化県民会議
2	宮城県自然保護課	宮城県自然環境保全審議会
3	仙台管区気象台	東北地方気候情報連絡会
4	一般社団法人あきた地球環境会議	コタキナバル市におけるゴミ分別・回収ガイドライン事業
5	一般社団法人あきた地球環境会議	サハ州地球温暖化防止活動推進センター設置事業
6	福島地方環境事務所	情報発信拠点 運営委員会

その他相談対応

- ・企画への助言
- ・講師紹介
- ・広報協力
- ・情報提供、事例紹介

等

相談対応件数 34 件

対話の機会数 120 件

③全国事業に関わる業務（仕様書番号Ⅳ - 1.-（１）- ウ）

■全国 EPO 連絡会議

催事名	第 1 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R2.6.25（木）
会場	オンライン会議
内容	（１）各 EPO の特徴、今年度重点の紹介 （２）外部連携事業について （３）令和 2 年度事業について

催事名	第 1 回全国 EPO 連絡会議 補完会議
開催日	R2.8.5（水）
会場	TKP ガーデンシティ仙台ホール 21（A+B） （宮城県仙台市）
内容	（１）EPO 事業の全体像について （２）EPO 事業の評価について ・今後どのように EPO 業務を評価していくか ・定量的評価について ・定性的評価について （３）本年度の各事業における認識のすり合わせ ・パートナーシップ基盤強化事業 ・地域循環共生圏プラットフォーム構築事業 ・森里川海

催事名	第 2 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R3.1.15（金）、19（火）
会場	オンライン会議
内容	（１）地域循環共生圏プラットフォーム事業進捗共有 （２）地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業進捗共有 （３）その他事業の進捗共有 （４）令和 3 年度 EPO 事業について （５）環境省からのトピックス （６）今後の外部連携事業について

■ EPO 研修会

催事名	EPO 研修会
開催日	R2.6.30（火）
会場	オンライン会議
内容	（１）地域経済循環分析の内容の説明やツール活用や地域プラットフォーム事業への活用 （２）環境計画課で検討している自治体単位の指標について



EPO 研修会（6/30）



第 1 回全国 EPO 連絡会議 補完会議（8/5）

1) 基本業務（仕様書番号Ⅳ-1.-（1））

③全国事業に関わる業務（仕様書番号Ⅳ-1.-（1）-ウ）

■ EPO 受託者会議

催事名	EPO 受託者会議
開催日	R2.4.14（火）
会場	オンライン会議
内容	- 各 EPO の開館状況について - 地域循環共生圏プラットフォーム事業について - 外部連携について - 今後のオンライン会議の活用について

催事名	EPO 受託者会議
開催日	R2.6.30（火）
会場	オンライン会議
内容	- 研修会の振り返り - スケジュール確認 - 森里川海企画について情報共有 - 外部連携について

催事名	EPO 受託者会議
開催日	R3.1.19（火）
会場	オンライン会議
内容	- 地域循環共生圏プラットフォーム事業について - 今後のスケジュール

■全国 EPO カタログ合宿

催事名	全国 EPO カタログ合宿 (EPO ネットワーク事例集作成会議)
開催日	R2.11.9（月）-11（水）
会場	セントラルフォレスト アイビー (岡山県岡山市)
内容	- 各 EPO の開館状況について - 地域循環共生圏プラットフォーム事業について - 外部連携について - 今後のオンライン会議の活用について



EPO ネットワーク事例集

④施設の維持・管理（仕様書番号Ⅳ-1.-（1）-エ）

開館状況	開館日数	245 日
	来場者数	815 人
会議スペースの提供	利用件数	86 回
	利用者数	392 人
図書資料等の提供	提供実績	144 回
	追加収集した資料等	126 件

■新型コロナウイルス感染症 拡大防止に向けた対応

①会議室の貸出中止 2020/4/7～5/7
2021/3/22～4/11

②執務室・会議室の感染予防対策

- 消毒薬の設置
- 定期的な消毒（1日4回）
ドアノブ等、触れる頻度が高い箇所の消毒
- 定期的な換気（1日4回、10分以上）
- スタッフ健康管理、出勤時の検温、マスク着用
- 飛沫防止パーティションの設置

③会議室貸出ガイドラインの作成



第2回全国 EPO 連絡会（1/15）



第2回全国 EPO 連絡会（1/19）

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

2）地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（仕様書番号Ⅳ-1.-（2））

①地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務

●事業概要

第五次環境基本計画ではSDGsやパリ協定といった、持続可能な社会に向けた国際的な潮流や国内でも複雑化する環境・経済・社会の課題を踏まえ、「地域循環共生圏」を提唱した。地域において特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、それぞれの地域の特性に応じて近隣地域等と共生・対流し、より広域的なネットワークや経済的なつながりを構築していくことで、新たなバリューチェーンを生み出し、地域資源を補完し支え合いながら農山漁村も都市も活かす考え方で、環境・経済・社会の課題の同時解決を目指す。

「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」では、広範な主体の積極的な参画と連携により、ローカルSDGsである地域循環共生圏の創造を推進することを目的としている。

事業プロセス

採択：32 団体

	全体		東北
・環境整備	新規	10 団体	1 団体
	継続	17 団体	1 団体
・支援チーム派遣	7 団体		1 団体
	※うち 3 団体は環境整備と重複		
・指標案検討モデル	1 団体		—

《地域循環共生圏の構想策定の4つの手順》

- ①話を聞きに行く
協働の仲間づくり、地域プラットフォームづくり
- ②地域のコンセプトを描く
計画づくり、地域版マンガラを描く
- ③事業のストーリーを語る
環境ローカルビジネスを発想する
- ④みんなで目指す目標を立てる
成果指標を設定する

	全体	EPO 東北・東北地方環境事務所	Reborn-Art Festival	三瀬地区自治会
4月	4/23 Web ミーティング	【随時】 進捗共有	環境整備	環境整備
5月	5/28 Web ミーティング		5/21 Web ヒアリング	5/21 Web ヒアリング
6月			6/5 ミーティング	6/10 ミーティング
第1回情報交換会（キックオフミーティング）7/2-3				
7月	7/3 Web ミーティング	7/28 打合せ	7/21 ミーティング	7/16 Web ミーティング
8月	8/3 ワーキンググループ①			8/7 全体会
9月	9/1 情報共有会議 9/4 アドバイザリー委員会① 9/8 Web 相談会 9/30 全国検討会議		9/25 Web ミーティング	
10月	10/22 ワーキンググループ② 10/23 作業部会① 10/26 地域循環共生圏フォーラム	東北地区合同意見交換会 10/12-13		
11月	11/5 Web 相談会 11/17 アドバイザリー委員会② 11/26 オンラインセミナー① 12/1 作業部会②			10/22 大鳥地区 WS
12月	中間報告会 12/8-9			
	12/9 Web ミーティング 12/14 ワーキンググループ③ 12/15 オンラインセミナー②	12/21 打合せ	12/24 ミーティング	1/10 自然体験グループ WS
1月	1/21 オンラインセミナー③ 2/3 Web 相談会			1/30 ミーティング
2月	2/24 オンラインセミナー④ 3/2 ワーキンググループ④ 3/4 アドバイザリー委員会③		2/19 キックオフイベント	2/9 森林資源活用グループ WS 2/19 全体会
3月	最終報告会 3/9-10			
	3/10 Web ミーティング	↓		3/24 森林資源利活用視察研修

2) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（仕様書番号Ⅳ-1.-（2））

①地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務

一般社団法人 Reborn-Art Festival（宮城県石巻市／継続）

●事業背景

東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市は経済基盤の落ち込み、人口減少が大きな課題となり、市全体が衰退している。震災復興とともに地域の活気を取り戻すべく地域ビジョンを話し合うワークショップを実施してきた一般社団法人 ISHINOMAKI2.0（地元事務局）と、有名プロデューサーや歌手、音楽家などが関わり環境課題や復興支援に取り組む AP バンク（東京事務局）が、東日本大震災からの持続可能な復興を目指し、石巻・牡鹿半島をメイン会場とした食・音楽・現代アートを柱とした総合芸術祭「Reborn-Art Festival」を開催している。

●事業概要

（1）Reborn-Art Festival（リボーンアート・フェスティバル）
石巻・牡鹿地区を中心に、豊かな自然を舞台として「アート」「音楽」「食」を楽しむ総合芸術祭で、2017年に初めて開催された。国内外の現代アーティストが訪れて地域と触れ合いながら作品を作り、さまざまなスタイルのイベントを通してたくさんの「出会い」を生み出す場が作られている。「出会い」をきっかけに地域復興や振興につながるさまざまな循環を生み出すことを目指している。

（2）課題

#東日本大震災から 10 年 #人口減少
#少子高齢化 #交流人口増
#基幹産業の衰退 #担い手不足
#猟師・漁師の高齢化 #鹿の食害
#にぎわいのあるまちづくり
#従来からの地域経済の担い手とアーティスト・ローカルベンチャーの共創

（3）地域循環共生圏構想

- ・芸術祭を軸に地域の魅力を掘り起こし、交流人口を増加させてること、さらに地域産業の活性化や芸術祭を通じて移住・定住を促す。
- ・2021 年 3 月には東日本大震災から 10 年を迎え、地域として大きな転換期を迎える。自然の猛威である震災からの 10 年で得た地域のしなやかさや知恵を活かしながら、アートによる新しいアプローチのコミュニティ形成に取り組む。
- ・牡鹿半島では増えすぎたニホンジカによる食害が発生し、猟師の高齢化・担い手不足が課題となっている。これまでも芸術祭の中で狩猟やジビエ食を取り上げてきたが、新たな地域産業としてのブランディングと販路開拓・流通経路の確保を行う。
- ・東日本大震災時のボランティアを契機とした移住者や地域の若手が新たな事業を起こしており、持続可能な地域循環を目指してローカルベンチャーの推進を図る。

●今年度の取組

- （1）第 3 回 Reborn-Art Festival（2021 年開催）に向けた準備
東日本大震災から 10 年の節目に、地域の内外からの復興と新たな循環を生み出すという目的の集大成を目指し、開催に向けた準備に取り組んだ。
- （2）オンラインイベント
「Reborn-Art ONLINE」の実施
ONLINE PROJECT #01「鹿のゆくえ」
ONLINE PROJECT #02
「交信 - 声なき声を聴くためのレッスン」
・多くの方に継続して関心を持ってもらい、地域内外の交流を生み出すイベントを実施した。英語、中国語も含め多言語で展開した。
- （3）鹿肉のブランディング
・観光協会や石巻市と連携し石巻市のふるさと納税返礼品として選定された他、地元産直での取り扱い、仙台市内の百貨店での取り扱いが決定し、鹿肉加工品の情報発信を行う WEB サイトを立ち上げた。
・インターンを募集し、担い手育成に向けた取組を推進した。
- （4）ステークホルダーの拡充と持続可能なビジネスの創出
・既存のステークホルダーとの意見交換
・Reborn-Art Festival（RAF）石巻メジャー×インディーズ コクリエーションの開催
石巻地域は RAF をきっかけに若手アーティストが増え、メディアで注目を集めるローカルベンチャーが育っているが、多くの地域住民にその存在を認知されていない。互いの出会いと共創を推進することで持続可能なビジネスモデルの創出を目指し、意見交流の機会を設けた。
石巻メジャー：震災以前より地域の経済活動を支えてきたプレイヤー
石巻インディーズ：アーティストやローカルベンチャーなど、震災や RAF をきっかけに活躍しているプレイヤー
※コクリエーション（Co-Creation）：「共創」を意味するマーケティング用語。広い意味では社会に「新しい価値」を提供する形のことを指す。



RAF 石巻メジャー×インディーズ コクリエーション (2/19)

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

2）地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（仕様書番号Ⅳ - 1. - （２））

①地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務

鶴岡市三瀬地区自治会（山形県鶴岡市／新規）

●事業背景

人口減少が加速して進み、経済的な停滞、担い手不足に災害対策への不安、交通など生活基盤の崩壊など地域の賑わいが失われつつある。また林業の衰退により、地域の森林荒廃が進み、地域内で利用されているエネルギー（重油、灯油）を貨幣換算すると地域外に約 1.1 億円が流出している。これらの課題に対して、鶴岡市やさまざまなセクターと連携しながら再生可能エネルギー事業、防災事業など、多様な課題の同時解決に向けた取組を進めてきた。

●事業概要

（１）課題

- | | |
|-------------|--------------|
| # 少子高齢化 | # 人口減少が加速度的 |
| # 担い手不足 | # 関係人口増 |
| # 林業の衰退 | # 森林の荒廃 |
| # コミュニティの維持 | # 木材活用 |
| # 地域内経済循環 | # 伝統文化の保存 |
| # 関係者との価値共有 | # 仲間を増やす・広げる |

（２）地域循環共生圏構想

- ・鶴岡市内の包括的な連携を生み出し、多方面を巻き込みながら多様な課題の多彩な同時解決を目指す。
- ・三瀬地区自治会がこれまで取り組んできた事業を鶴岡市のエリアに展開し、鶴岡市全体が持つ豊富な森林資源、海・山・川・里にまつわる伝統芸能等のさまざまな文化、日本で唯一ユネスコ「食文化創造都市」に登録される食文化、都会にはない濃密な地域コミュニティを活かし、「森林資源エネルギー活用事業」「海、山、川、里自然体験事業」を展開し各事業に関わるステークホルダーと合意を図りながら協議会等の一体的な組織構築を目指す。
- ・協議会が受け皿となり、行政や金融機関、DMO の力を借りながら都市部とのつながりの中で人的資源、資本の流入、雇用創出を実現していく。

●今年度の取組

（１）ステークホルダーの巻き込み

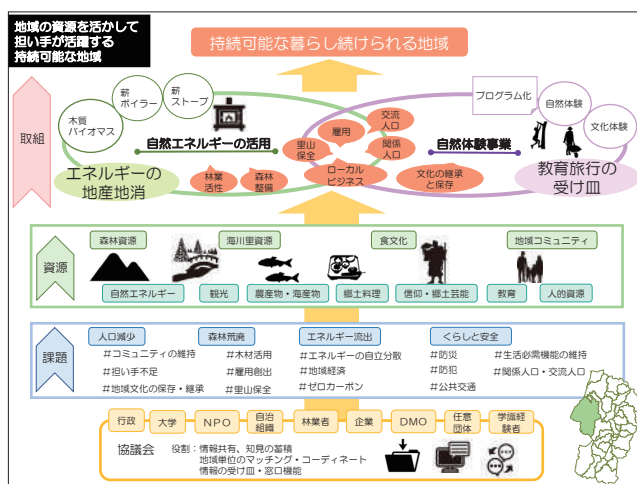
行政、近隣自治会、地域で活動に取り組む NPO、企業等、ステークホルダーと個別に意見交換を行い、事業全体の方向性を共有するため関係者が一堂に会す「全体会」を開催した。

（２）課題整理ワークショップの開催

多層的なネットワークの構築によって地域の課題解決を目指すため、各主体が抱える課題や今後の展望を明らかにするワークショップを個別に開催した。山形大学農学部渡辺ゼミの協力を得て、課題とニーズの整理に取り組んだ。

（３）合意形成の場の設定

「森林資源エネルギー活用事業」と「海、山、川、里自然体験事業」に分かれ、各事業に関わってほしいステークホルダーと意見交換の場を設けた。協議会を設立した場合の有意性や求められる役割、各主体の関わり方について議論し、共通認識のもとで地域の目指す未来を確認した。



地域のコンセプトを表した『地域版マングラ』



自然体験事業 課題整理ワークショップ（1/10）



合同意見交換会 現地視察（10/13）

● EPO 東北のアプローチ

- 取組概要、スケジュール、採択団体が抱える課題等を確認するため、対面・オンラインでのヒアリングを行い、作成支援に取り組んだ。
- 採択団体が主催し現地で開催される会議やワークショップ等に参加し、ステークホルダーの参画度や関係性の確認を行うとともに進行の補助を行った。
- 採択団体合同意見交換会の開催
東北地区の採択団体 2 団体と事業担当課の環境省環境計画課、請負事業者、地域のステークホルダー等が参加する意見交換会を開催した。関係者全員で事業の概要および方向性を確認し、本事業の理解を深めることを目的とした。また継続団体と新規団体がそれぞれ進捗状況と地域に対するアプローチの仕方を共有することにより、新たな視点と気づきを得る学びの場として開催した。



合同意見交換会（10/12-13）

〔採択団体合同意見交換会〕

開催概要

催事名	地域循環共生圏プラットフォーム事業 東北地区合同意見交換会
開催日	R2.10.12（月）-13（火）
会場	三瀬地区コミュニティセンター （山形県鶴岡市）
参加者	22 名
主催	EPO 東北、東北地方環境事務所
内容	①地域循環共生圏プラットフォーム事業について 環境省環境計画課 富山竜生氏 ・今後の事業の方向性 ・1 年半事業を実施しての手応え ・期待する事業モデル ②事業進捗状況報告、意見交換 ・三瀬地区自治会 石塚慶氏 ・（一社）Reborn-Art Festival 松村豪太氏 ③成果物について ・全体整理、スケジュール確認 ・成果物作成状況、不安点共有 ・全体意見交換 ④現地視察 ひゃくねん森

●地域循環共生圏に通じる担い手ヒアリング

地域循環共生圏の概念に資する活動を行っている団体等との連携強化、活動支援に向けてヒアリングを実施した。

団体	石巻 / 川のビジターセンター 平井和也氏
開催日	R2.8.12（水）
内容	・川のビジターセンターがある地域には北上川があり、有機農業や畜産が盛んで様々な資源や人、施設が存在するが、それぞれが連動性を持たず「点」で活動を行っている。 ・地域にはこれらの取組をつなごうと、活動取材し情報発信を行う団体が存在する。 ・地域の地縁の力を活かし、「点」として存在する各取組をつないで面としての活動へと変えていくために、地域循環共生圏の概念を取り入れていく必要があると感じている。 ・再生可能エネルギーや有機農法、ごみのたい肥化等、他地域の先進事例から学んでいきたい。

団体	生活クラブ連合会 小泉奉子氏
開催日	R3.1.20（水）
内容	・庄内地域で「食の故郷 FEC ネットワークづくり」に取り組んでいる。組合員と生産者による食（F）、エネルギー（E）、たすけあい（福祉）（C）の自給を目指す構想だ。 ・1970 年から首都圏との産地交流を行ってきた。持続可能なあり方を考え、新たな提携のステージづくりを行いたいと考えている。庄内地域の生産者とともに「庄内協議会」を発足させ、2017 年には生産者が生協を立ち上げた。 ・酒田市では生涯活躍のまちを基本計画に掲げており、多世代が住む新しいコミュニティ拠点の創出を協働で取組む予定でいる。有機的な連携を生み出していきたいが、地域とどう交わるか、一般市民の巻き込みが課題となっている。

●事業総括

〔成果〕

- 各団体の事業スキームの把握に努め、課題の整理やステークホルダーとのワークショップ進行の補助など、環境整備に必要なサポートを実施したことにより事業の底上げができた。
- EPO 東北独自の取組みとして、採択団体合同の意見交換会を開催した。互いに刺激を受けた様子が見られ、事業を推進する上で自分達の取組みを見直すきっかけを作り出すことができた。・東北地域でも地域循環共生圏構想へ関心を持つ主体が増えており、環境分野に留まらず多様な主体とのネットワークが生まれている。

〔課題〕

- 本事業に関わる関係者が多く中で、オンライン会議を活用した会議や研修会が行われた結果、業務量が増加傾向にある。情報共有と円滑なコミュニケーションのために新しい仕組みや工夫が課題となる。
- 過年度まで実施された伴走支援事業とは全体の枠組みが異なり、定期的な事業報告や定期ミーティングが設計されていない。採択団体の進捗と課題を把握し、支援内容のあり方を適宜振り返る工夫が必要である。
- 環境、社会、経済の 3 側面から事業展開を考える必要があり、多角的な視点から助言・支援ができるよう、情報収集とスキルアップが課題となる。

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

2）地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（仕様書番号Ⅳ - 1. - （２））

②森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

② -1 環境学習施設等との会議の開催

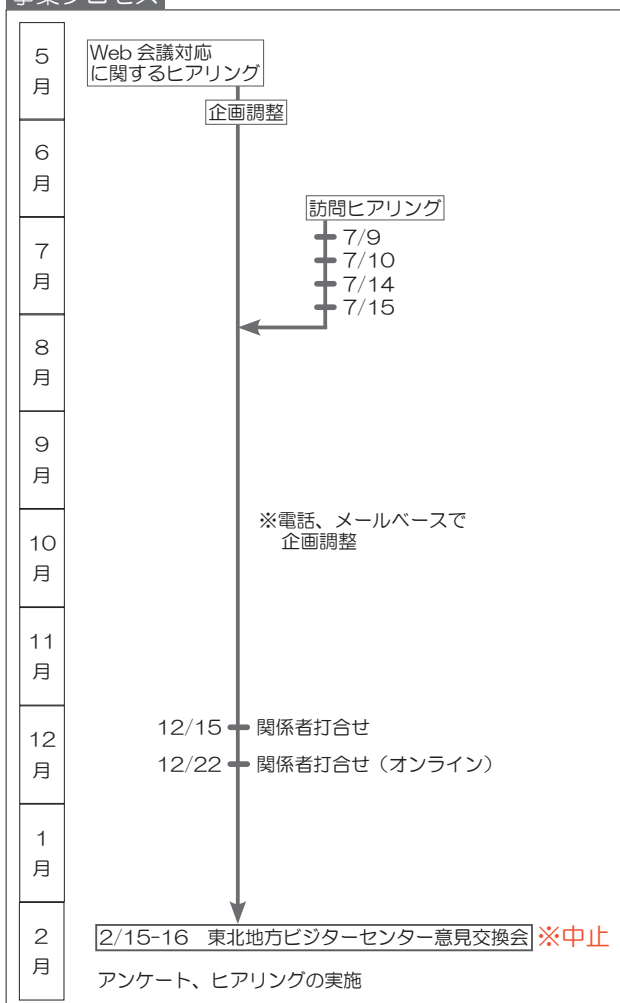
●事業背景

第5次環境基本計画では目指すべき社会の姿として「地域循環共生圏」の創造を掲げている。地域資源を活かし、地域の特性に応じて保管し、支え合う形を目指しており、生物多様性・森里川海を入口とした学習施設であるビジターセンター、インフォメーションセンターの活用が期待される。EPO 東北ではこれらの施設とのつながりが弱く、相互理解と学習の機会を設けネットワークの拡充に取り組むこととし、平成30（2018）年度から継続して交流会を開催してきた。

●課題

- ・少ない人員でのセンターの運営、利用者向けプログラムのあり方、地域との連携、館内展示の工夫など、施設ごとに多くの課題を抱えている。
- ・スタッフの研修の機会がないこと、新しい情報を収集し勉強する余力がないことから、生物多様性、ESD、SDGs、地域循環共生圏など、環境省の施策や今後重要となるキーワードについての認識が低く、ビジターセンターの事業と紐づけた取組をしている施設が少ない。

事業プロセス



●ヒアリングで把握したニーズ

- ・コロナウィルス感染症の影響で来場者数に影響が出ている。（来場者が減った施設と最高来場者数を記録した施設がある）
- ・地域でビジターセンターがどんな役割を果たすのか、地縁の力を活用した地域との連携のあり方を模索している。
- ・どんな概念で展示を行っているか等、日常業務について共有し学び合う機会が欲しい。
- ・新しいスタッフがビジターセンターで働く意義を理解し、スキルアップを図る機会が欲しい。

●プロジェクト概要

東北地域全体の活動の底上げを目指して、SDGsや地域循環共生圏など、今後重要となるキーワードを理解し、事業における活用について学ぶ機会とする。相互交流と学びあいの場を作ることによって東北地域のネットワークを構築し、今後はセンター間で情報交換や連携が行われるようなネットワーク構築を目指す。

●EPO 東北のアプローチ

①ビジターセンターへのヒアリング

コロナウィルス感染症が施設運営にどのように影響を及ぼしているかを含め、各ビジターセンターに対して現状と課題のヒアリングを行った。

②オンライン開催の検討

環境省直轄の14施設に対してオンライン会議への参加の可否を打診したが、ネット環境の整備状況に差があり、約半数の施設から参加できないとの回答を得た。

③小規模交流会の企画

スタッフの入れ替わりがあった南東北のビジターセンターを主な対象とし、コロナウィルス感染症への配慮から規模を縮小した交流会を企画した。会場となる裏磐梯ビジターと相談の上で企画調整を進めた。

開催概要

※中止

催事名	東北地方ビジターセンター意見交換会
開催日	R3.2.15（月）-16（火）
会場	裏磐梯ビジターセンター（福島県耶麻郡）
参加者	一名
主催	EPO 東北
協力	GEOC
内容	基調講演 「SDGs とビジターセンター」 青森大学社会学部 教授 藤公晴氏
	話題提供 「地域循環共生圏を意識したビジターセンター」 海のビジターセンター 浄土ヶ浜ビジターセンター
	ワークショップ 【ファシリテーター】 GEOC 江口健介氏

※中止：新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった

●アクティブレジャーとの情報交換

ビジターセンターとの連携について情報交換をしたいと相談を受け、これまで実施してきたビジターセンター交流会の内容や、企画に際して実施した訪問ヒアリングを通してEPO 東北が把握したニーズ等について情報交換を行った。

団体	十和田八幡平国立公園管理事務所 盛岡管理官事務所
開催日	R3.3.2（火）
内容	- 他地域のビジターセンターと自然保護官事務所の連携事例について - 施設開設時に利用者層の想定と実際の利用者層のギャップ - SNS を活用した発信事例について

●アンケートの実施

東北管内にある環境省直轄のビジターセンターおよびインフォメーションセンターに対してアンケートを実施し、「地域循環共生圏」や「SDGs」に対する意識調査を行った。

Q.SDGs の視点を業務に取り入れたいと考えているか	
①すでに取り入れている	20.6%
②来年度事業に取り入れる予定がある	7.1%
③取り入れたいと思っているが具体的にどうしたらよいか分からない	64.3%

Q.SDGs を業務に取り入れるにあたっての課題	
①業務との関連性がわからない	7.1%
②どのように業務に取り入れてよいかわからない	42.9%
③業務に取り入れる余裕がない	7.1%
④特になし	21.4%
⑤その他	21.4%

Q. 地域循環共生圏についてどの程度知っているか	
①意味および重要性を理解し、取り組んでいる	20%
②意味もしくは重要性を理解し、取り組みたいと思っている	13.3%
③言葉は知っていて意味もしくは重要性を理解できているが、取り組んでいない	26.7%
④言葉は知っているが意味もしくは重要性を理解できていない	13.3%
⑤聞いたことがない	26.7%

目的	ビジターセンター交流会の中止に伴い、次年度の開催に向けた体制整備および意識調査を目的に実施した。
対象	環境省直轄のビジターセンターおよびインフォメーションセンター
実施	R3.2.19～3.3
回答	14 施設 15 名

- 【交流会に関するご意見や EPO 東北への要望（抜粋）】
- いつもありがとうございます。ビジターセンター間での情報交換ができることや、最新の環境トピックスについて考えることができるととても良い機会だったと思います。今年はウィルスの影響で難しかったかと思いますが、今後もぜひ継続して企画いただきたいと思います。
 - 交流会はぜひ継続してほしいと思う。SDGs や地域循環共生圏を今後各センターごとに取り組まれることが予想される中で、センターごとの情報共有をしたいし、他施設の取り組みを参考にしたいと思う。
 - ビジターセンターやインフォメーションセンターと言った名称を国内に広めて訪れる人への認知度を上げる方法などをもう一度検討したい。
 - 皆で集まり顔を合わせるということは大切であると考えているが、コロナ禍や遠方からの参加者の負担を考えるとリモート形式の会議（交流会）を主流としていかなければならないのではないかと感じる。
 - 交流することで、今まで考え付かなかったヒントを得ることも考えられるので、引き続き交流会を実施してほしい。
 - 交流会を実施する前に、各センターでの事前アンケート（業務等で疑問に思っていること、他施設の業務遂行について聞いてみたいこと等）を実施いただき、それをテーマに話し合える場を希望します。
 - ビジターセンター活動へのサポート、引き続きよろしくお願いします。

●事業総括

【成果】

- 交流会は中止となったが、アンケート調査を通して各センターの意見を集めることができた。SDGs および地域循環共生圏に対する認識や、交流会を情報のインプットの機会と捉えていることを把握できた。
- 交流会の継続を望む声が多く、企画内容についても具体的な提案が寄せられ、関係構築の手応えを感じることができた。
- アンケートで得られた情報については、次年度開催の糧とする。

【課題】

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から関係者が参集しての交流会実施が難しい一方で、各センターの立地状況によりネット環境が整わず、オンライン開催も難しいことが把握できた。今後は新しい生活様式に合わせて実施スタイルやネットワークの継続に向けたアプローチを見直す必要がある。

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

２）地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（仕様書番号Ⅳ - 1.-（２））

②森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

② -2 パートナリシップ団体情報交換会

●事業背景

EPO 東北ではパートナーシップ団体との連携・協働の関係性を継続させるため、定期的に会議の場を設定してきたが一方的な事業報告を行う場に留まっていた。運営第４期から大幅な見直しを行い、パートナーシップ団体にとって有意義な学習と交流の機会となるよう企画に取り組んでいる。全てのパートナーシップ団体が地域 ESD 活動推進拠点に登録しており、地域 ESD 活動推進拠点と東北地方 ESD 活動支援センターの連携については関係性を構築していかなければならない段階にある。

開催概要

催事名	パートナーシップ団体情報交換会	
開催日	R2.9.11（金）	
会場	仙都会館 7F D会議室（宮城県仙台市）	
参加者	20 名	
主催	EPO 東北	
内容	講演	「森（木水土）時代は、実は SDGs だった～学生とともに考える地域循環共生圏～」 青森大学 佐々木豊志氏
	情報提供	地域循環共生圏に関する３つのフォーラム開催について NPO 法人環境パートナーシップいわて 佐々木明宏氏
	全体ディスカッション 「SDGs やコロナウィルス感染症の影響など各地域の状況について」 （以下抜粋） ・福島県内では震災復興、台風被害、コロナウィルスの３つの対策本部が立ち上がり、職員の手が割かれている。 ・仙台市では環境プランの見直しをしていることから、オンラインで市民が議論する機会を設けた。実施する中で市民側からのアプローチや協働のプラットフォームが求められていると感じている。 ・青森ではエコの輪スマイルプロジェクトが展開されていたが、コロナの影響で今年は活動が止まっている。東北では初めて海ごみゼロ宣言を出した。 ・ローカルに行けば行くほど ESG はピンとこない、という反応だ。SDGs に関しては研修会やセミナーの依頼が増えている。	

●課題

コロナウィルス感染症の影響で、会場に大人数が集まるセミナーや自然体験イベントの開催が制約される事態となった。オンライン形式の催事は参加できない人もおり、事業運営のあり方を含めて試行錯誤が行われている。これまで通りの活動が実施できない中でも SDGs への関心の高まりから問合せは増えており、「with コロナ」「after コロナ」とともにローカル SDGs として東北らしい地域循環共生圏の創出など、多角的な視点から今後の活動展開を考えることが課題となっている。

●プロジェクト概要

コロナウィルス感染症への対応や SDGs に関する地域の関心の高まりなど、各地の状況と対応を共有し、ノウハウを共有することで互いに学び合う情報交換会を実施する。

●EPO 東北のアプローチ

各県で試行錯誤の対応が行われていることから、対面による情報交換会を行い各地の情報とノウハウの共有を行った。また、東北らしい地域循環共生圏のモデルを考える機会とするため、青森県の事例を交えながら講演を行った。



パートナーシップ団体情報交換会（9/11）

●事業総括

【成果】

- ・SDGs への関心の高まりや、コロナウィルス感染症による活動への影響など、各地域や団体の状況を共有し、対応のあり方について情報共有を行うことができた。
- ・東北地域における地域循環共生圏のあり方を考える機会として企画し、今後は金融機関との連携・協働が重要になるとの共通認識を持つことができた。

【課題】

- ・コロナウィルス感染症の影響で、これまで実施してきた取組の停滞がみられる。一方で脱炭素や地域循環共生圏、SDGs の視点を取り入れた取組が求められており、新たなアプローチや情報発信の工夫が必要となる。
- ・セミナー等のオンライン開催の試行が行われているが、他との差別化や運営ノウハウの蓄積が課題となっている。今後もネットワークを活用した情報共有や連携、協働による活動展開の模索が課題となる。

2) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（仕様書番号Ⅳ-1.-（2））

③地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

●事業背景

環境省では地域にある資源に着目し、農山漁村と都市を活かしあう関係性を創造する「地域循環共生圏」という考え方を提唱し、SDGsを達成するためのアプローチとして位置づけている。地域の金融機関を中心に「ESG金融」について関心が高まっており、持続可能な地域のあり方を考える上では欠かせない視点になっている。

開催概要

催事名	地域循環共生圏 ESG 金融フォーラム
開催日	R2.12.3（木）
会場	アートホテル盛岡 3階鳳凰の間(岩手県盛岡市) オンライン同時配信
参加者	来場 77名 オンライン参加 220名
主催	EPO 東北、環境省東北地方環境事務所、 NPO 法人環境パートナーシップいわて
共催	岩手県温暖化防止活動推進センター
協力	近江商人末裔会、 いわてSDGsカフェ実行委員会、 サステナビリティ・フォーラム実行委員会
後援	東北財務局、岩手県、（一社）岩手経済同友会、 （一社）岩手県産業資源循環協会、岩手県中小 企業家同友会、岩手県環境保全連絡協議会、岩 手大学、岩手県立大学、富士大学岩手銀行、北 日本銀行、東北銀行、盛岡信用金庫
内容	基調 講演「コロナ時代のサステナブル経営と地域 戦略」 三菱UFJリサーチ & コンサルティング （株）経営企画部副部 吉高まり氏
	事例 紹介「近江商人の ESG 地域金融」 滋賀銀行 総合企画部 サステナブル戦略 室長 嶋崎良伸氏 「地域循環共生圏 四国地域ブロック会 議について」（オンライン講演） 四国 EPO 常川真由美氏
	ショートプレゼンテーション 【ファシリテーター】 （一社）コ・クリエーションデザイン代表理事 平田裕之氏 【企業・団体】 ・株式会社浄法寺漆産業 ・FROM NIPPON ・東北景観倶楽部 ・（株）ピーアンドエーテクノロジー ・財務省東北財務局 ・釜石ローカルベンチャー合同会社 sofo ・SoRaStars（株） ドリームシードプロジェクト ・（株）柴田産業
参加者 の声	・世界の動きから日本のこの半年の激動を熱く 語って頂けたのでとても共感できました。 ・するどい切口での講話、インパクトがあり好 感を持って拝聴させていただきました。 ・企業として信念のある非財務情報 & 将来性を 発信することの重要度を再認識できた。 ・グローバルな視点からローカルを考えられる 場として大変貴重な時間になりました。

●課題

- ・東北地域では「ESG金融」に関する認識が浅く、自治体、NPO、企業、経済団体、地域の金融機関等とのネットワークが形成されていない。
- ・EPO 東北はこれまで環境分野のネットワークを構築してきたが、地域循環共生圏をテーマに新たなステークホルダーとの関係構築が課題となっている。

●プロジェクト概要

コロナウィルス感染症からの緑の復興（グリーンリカバリー）を目指し、地域循環共生圏を地域で展開する上で欠かせない金融機関の役割を踏まえ、実践的な方策について共有するフォーラムを開催する。開催にあたっては東北財務局と情報交換を行い、行政、金融機関、地元企業を主な対象とした学びと交流の機会を創出する。

●EPO 東北のアプローチ

- ・東北地方環境事務所と協働し、東北財務局との情報交換を行った（6/9、9/1、11/18）。
- ・EPO 東北のパートナーシップ団体である環境パートナーシップいわてとの協働による、岩手県を中心に東北に発信するハイブリット型のフォーラムを開催した。



地域循環共生圏 ESG 金融フォーラム（12/3）

●事業総括

【成果】

- ・コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、会場参加とオンライン参加を呼びかけるハイブリット開催を行い、290名を超える参加を得ることができた。
- ・「ESG金融」をテーマに新たなステークホルダーの巻き込みを図ることができた。

【課題】

- ・多くの参加が得られたことで東北地域においても ESG 金融に関する関心と高さが伺えた。今後、ESG 金融を前面にこれまで関係が薄かった金融機関や企業等とのパートナーシップ形成を考えているが、具体的なアプローチ方法が課題である。

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

3) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化（仕様書番号Ⅳ - 1.-（3））

①再生可能エネルギー交流会事業

●事業背景

東日本大震災後にEPO 東北が取り組んだ「3.11 あの時」ヒアリングをきっかけに、平成23（2011）年度より再生可能エネルギー交流会を開催し、地域における自立分散型のエネルギーのあり方を議論してきた。平成26（2014）年度からは地域開催型交流会へと形を変え、地域のキーパーソンとなる団体と協働で「みちのく薪びと祭り」を開催してきた。令和元（2019）年度に東北1巡を達成し、東北らしさや東北ならではの地域性を強く意識した一体感が生まれている。

●課題

環境省が掲げる地域循環共生圏や、全世界で取り組むSDGsなど、外的要因が大きく変化している。社会的な変化を踏まえて「みちのく薪びと祭り」が今後どうあるべきか関係者とともに議論する場を設け、次の展開に向けた合意形成を図ることが課題となっている。

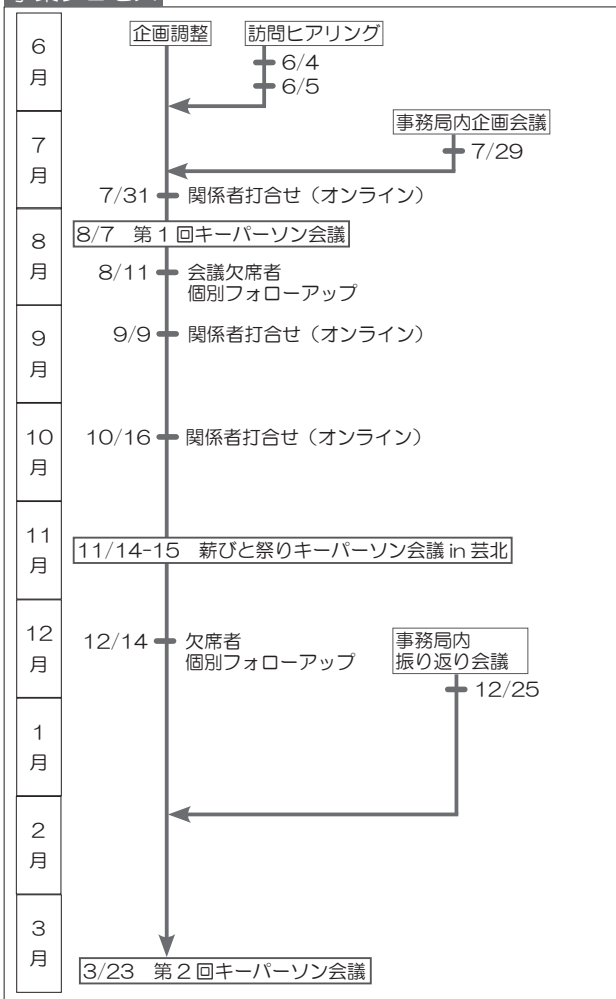
●プロジェクト概要

- ・山林の景観および生態系保全と地域経済の活性化、木質バイオマスの利用促進に取り組む「芸北せどやま再生事業（広島県北広島）」を視察し、地域の資源を活用した連携事例を学ぶ。
- ・6年間実施した「みちのく薪びと祭り」を振り返り、会の意義や成果、課題を整理する。今後のあり方について議論し、合意形成を図る。

●EPO 東北のアプローチ

- ・キーパーソンと「地域循環共生圏」の概念を共有し、東北地域における薪をテーマとした再生可能エネルギーの今後の可能性について議論の場を設ける。
- ・第5回みちのく薪びと祭りからEPO ちゅうごくと共催しており、芸北せどやま事業の関係者は第3回から参加している。「みちのく薪びと祭り」の役割や意義について東北外からの意見を交えることで議論の活性化を図る。

事業プロセス



オンラインキーパーソン会議（8/7）



薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北（11/14-15）

開催概要

■キーパーソン会議

催事名	第1回キーパーソン会議
開催日	R2.8.7（金）
場所	オンライン会議
参加者	13名
主催	EPO 東北
内容	・6年間の振り返り ・芸北せどやま事業の視察について

催事名	第2回キーパーソン会議
開催日	R3.3.23（火）
場所	オンライン会議
参加者	14名
主催	EPO 東北
内容	・薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北振り返り ・今後に向けた意見交換



薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北（11/14-15）茅金市場見学



薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北（11/14-15）薪ボイラー使用施設見学

■薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北

催事名	「地域循環共生圏づくり支援ネットワーク交流・意見交換会 ～地域を超えて「環境・社会・経済・教育」の好循環について考える～」 薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北	
開催日	R2.11.14（土）-15（日）	
場所	北広島町役場 芸北支所 他（広島県山県郡北広島町内）	
参加者	15名	
主催	EPO 東北	
共催	EPO ちゅうごく	
協力	認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会 GEOC	
内容	オリエンテーション	
	話題提供	「芸北せどやま再生事業・茅プロジェクトについて」 芸北 高原の自然館 主任学芸員 白川勝信氏
	現地視察	・せどやま市場 ・薪ボイラー使用施設 ・茅金市場 他
	意見交換会 【ファシリテーター】 芸北 高原の自然館 主任学芸員 白川勝信氏	



薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北（11/14-15）意見交換会

●事業総括

【成果】

- ・地域循環共生圏や SDGs の視点も踏まえて、「みちのく薪びと祭り」を次のステージに進めるための意識づけと課題整理を行うことができた。
- ・キーパーソンにとって「みちのく薪びと祭り」は EPO 東北が主催する事業ではなく、関係者とともに皆で開催する催しであるとの思いが強く、協働で実施する交流会型事業としての定着が見られた。

【課題】

- ・「みちのく薪びと祭り」の参加者が得た学びが地域に活かされているか、検証が課題となっている。
- ・「祭り」として残すべきとの意見が強くある一方、EPO 東北が担っている企画調整や運営をキーパーソンや地域のステークホルダーと共に担う体制への移行が課題となる。

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

３）拠点間連携による地域内の中間支援機能強化（仕様書番号Ⅳ - 1.-（３））

②福島県内ヒアリング

●事業概要

福島県内で東日本大震災復興活動及び環境活動を行っている団体等との連携強化に向けたヒアリングを行った。

団体	裏磐梯ビジターセンター自然体験活動運営協議会 福島県北塩原村商工観光課
開催日	R3.3.11（木）
内容	- 大震災の前の年から、県外から会津若松市へ訪れる教育旅行来訪学校の調査を行っていた。平成 22 年度は年間で 841 校が訪れていたが、平成 23 年度は 100 件と激減した。いかに件数を復活させるか様々な方と議論をしている。観光や食べ物においても放射能の影響を心配する声上がり、福島第一原子力発電所から会津若松市の距離を図で示し、安全をアピールして来た。 - 裏磐梯ビジターセンターでは新型コロナウイルスの感染拡大により、来館者数は減少している。 - 会津若松市は遺産観光で成り立っている。そこに異議を唱える者もいるが、地域住民にとって会津若松の歴史と文化は地域の誇りであり、会津藩の教えは現代の子どもたちにも受け継がれている。

団体	NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
開催日	R3.3.12（金）
内容	- 新型コロナウイルスの影響は、イベントの開催が中止になった程度でオンラインの発達もありそこまで苦労はなかった。 - 昨年の 12 月 1 日に「ふくしま SDGs ネットワーク」を設立した。企業・市民センター・福島県地球温暖化防止活動推進員など 30 名の会員がいる。会員を 50 名まで増やしたいと考えている。 - 福島県内で 7 か所程度に「うつくしま SDGs 拠点」（仮称）を設けたい。 - 会津磐梯エリアの、北塩原村・磐梯町・猪苗代町の 3 町村が連携し、地域連携 DMO の取組が進められており、この取り組みのサポートを行っている。経済性も環境性も社会性も考えていかなければいけないと考えている。

４）事業検討委員会の開催（仕様書番号Ⅳ - 1.-（４））

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
議長	新妻弘明	東北大学名誉 教授、 日本 EIMY 研究所所長
委員	市瀬智紀	宮城教育大学 教員キャリア研究機構 機構 教授、ESD/ ユネスコスクール・ 東北コンソーシアム運営委員長
	小幡秀樹	株式会社サイコー 総務経理部兼人事広報部 参事兼部長
	藤公晴	青森大学社会学部 教授
	畠山順子	NPO 法人あきたパートナーシップ 副理事長
	渡部昌俊	ふくしま薪ネット
	中田美英子	秋田県生活環境部温暖化対策課 課長
	佐々木紀子	山形県環境エネルギー部環境企画課 課長



事業検討・企画運営委員会オンライン開催（7/3）

●開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 1 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R2.7.3（月）
会場	オンライン会議
参加者	22 名（委員 5 名）
内容	（１）会議主旨説明 （２）地域循環共生圏構想について （３）令和 2 年度事業計画について （４）意見交換
第 2 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 2 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R3.2.1（月）
会場	オンライン会議
参加者	28 名（委員 7 名）
内容	（１）EPO 東北事業検討委員会 ①事業報告 ②意見交換 （２）東北 ESD センター企画運営委員会 ①事業報告 ②意見交換

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

1) ESD 活動に関する相談・支援窓口（仕様書番号Ⅳ -2.-（１））

共催

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	6/12	宮城県 気仙沼市	気仙沼市教育委員会 気仙沼 ESD / RCE 推進委員会	令和２年度 第 1 回気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会
2	8/29	Web 開催	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム みやぎ ESD 研究会	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 第 1 回 SDGs・ESD オンラインセミナー 新学習指導要領における授業実践
3	9/19	Web 開催	公益社団法人仙台ユネスコ協会	2020 第 4 回 SALON & ZOOM 講座 The future we want 私たちが望む未来
4	11/6	宮城県 気仙沼市 +Web 開催	気仙沼市教育委員会 宮城教育大学 ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会	気仙沼 ESD / RCE 円卓会議 2020
5	1/18	宮城県 気仙沼市	気仙沼市教育委員会 気仙沼 ESD / RCE 推進委員会	令和２年度 第 2 回「気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会」
6	2/3	Web 開催	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム みやぎ ESD 研究会	ESD / ユネスコスクール・東北コンソーシアム 第 3 回オンラインセミナー
7	2/20	Web 開催	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	ESD / ユネスコスクール・東北コンソーシアム 学びあいセミナー

活動支援・協力

※中止：新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため催事が中止となった

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	4/22	秋田県 北秋田市	秋田県立北鷹高校	「課題研究」SDGs 講話 ※中止
2				令和２年度職員研修「SDGs と秋田北鷹」 ※中止
3	7/11	青森県 八戸市	八戸工業大学第二高等学校	中学 1 ～ 3 年生対象 SDGs 勉強会
4				高校 2 年生対象 SDGs 勉強会
5				高校 2 年生有志対象 SDGs ワークショップ
6	8/25	山形県 東根市	東桜学館高等学校	高校 1 年生対象 国際理解教育講演会
7	9/17	山形県 天童市	山形県教育センター	令和２年度 山形県教育センター専門研修 ESD、SDGs の授業づくり講座
8	10/10	青森県 八戸市	八戸工業大学第二高等学校	高校 1 年生対象 SDGs 勉強会
9	10/11	福島県 田村郡	コミュタン福島	コミュタンサイエンスアカデミアおよび ふくしまサイエンスコミュニケーター養成講座 特別講演「SDGs と身近な暮らしのつながりを考えてみよう」
10	10/19	山形県 山形市	山形県環境エネルギー部 環境企画課	環境地域づくり担い手連携推進セミナー・山形県環境 学習支援団体交流会
11	10/31	宮城県 仙台市 +Web 開催	公益社団法人仙台ユネスコ協会	2020 第 7 回 SALON & ZOOM 講座 文化トーク「仙臺まちなかシアター」という演劇活動～ with コロナ時代の「文化活動」とは～
12	11/7	岩手県 二戸郡	一般社団法人 カシオペア青年会議所	みんなで始めよう！SDGs ～小さな行動が未来を変える～
13	11/26	秋田県 鹿角市	鹿角地域振興局	鹿角地域教育旅行関係者 SDGs セミナー
14	12/16	宮城県 仙台市	宮城県仙台第三高等学校	宮城県仙台第三高等学校 SSH 中間報告会・授業づくり プロジェクトフォーラム
15	2/-	福島県 猪苗代町	一般社団法人 福島県観光物産交流協会	SDGs セミナー（仮） ※中止
16	3/18	秋田県 北秋田市	秋田県立北鷹高校	「課題研究」次年度構想発表会
17				令和２年度職員研修「SDGs と秋田北鷹」
18	3/20	Web 開催	全国ユース環境ネットワーク 事務局（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）	東北地区 高校生 SDGs オンラインセミナー

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

1) ESD 活動に関する相談・支援窓口（仕様書番号Ⅳ -2.-（１））

後援

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	8/9-10	山形県 山形市	奈良教育大学、 近畿 ESD コンソーシアム	2020 年度 ESD ティーチャープログラム山形会場
2	10/4	Web 開催	NPO 法人近畿環境市民活動相互支援センター、 NPO 法人北海道市民環境ネットワーク、 NPO 法人地域の未来・志援センター、 一般財団法人セブンイレブン記念財団	第 16 回環境市民活動助成金セミナー
3	11/2	宮城県 仙台市	文部科学省、宮城教育大学	第 2 回ユネスコスクール 北海道・東北ブロック大会

催事参加等

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	8/28	Web 開催	NPO 法人メディアージュ 一般社団法人 SDGs とうほく	ウワサの広場～ニュースと SDGs ～ 新型コロナウィルスと SDGs
2	11/20	Web 開催	福島県南会津郡只見町教育委員会	ESD・海洋教育公開授業研究会
3	2/11	Web 開催	宮城教育大学 ボランティア・サークル	SDGs・ESD についての学生セミナー



八戸工業大学第二高等学校 SDGs 勉強会（7/11）



コミュン福島「SDGs と身近な暮らしのつながりを考えてみよう」（10/11）



ZOOM ウワサの広場（8/28）



第 2 回ユネスコスクール北海道・東北大会チラシ（11/2）

2) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等仕様書番号Ⅳ -2- (2))

●情報収集

これまで対面による情報収集に努めてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から出張・外出を自粛した。このためオンラインでの情報共有会の開催を試行し、今後の事業連携に向けた情報収集に取り組んだ。

ウェブサイト

①体制の見直し

～12月：原稿を作成し更新は全国センターへ依頼
R3.1月～：東北ESDセンター内で更新作業を実施
できるよう体制を整えた。

- ・固定IPアドレスを取得
- ・更新権限の取得
- ・更新作業専用のPCを設置

②サムネイル画像の統一

省庁や他団体のニュース掲載にあたり、画像使用について制限がある場合に対応するため、ニュースのカテゴリ毎に表示する画像を用意し、運用ルールを整理した。

※メールマガジン、機関誌はEPO 東北事業報告(P30)を参照

●事業総括

【成果】

- ・非常事に際しウェブサイト更新が滞ったことから、東北ESDセンター内で更新作業ができるよう体制を整えた。

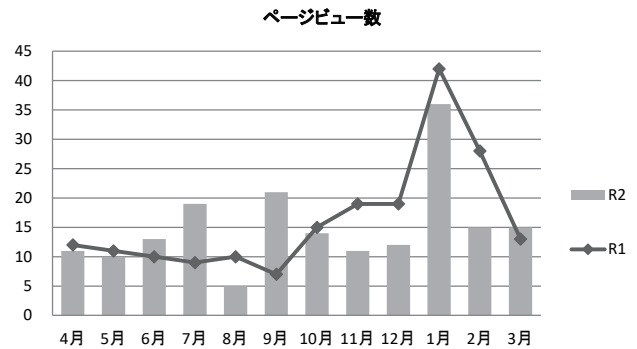
【課題】

- ・情報収集および発信のあり方については企画運営委員会でもさまざまな提案・指摘が出されており、継続して充実化に向けた改善が求められる。
- ・ウェブサイトアクセス数改善のためには掲載情報やコンテンツの見直しが課題となる。

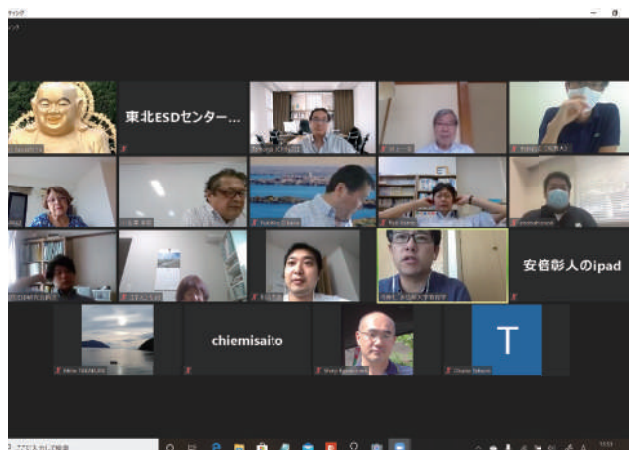
●情報発信

東北ESDセンターではウェブサイトの更新を全国センターに依頼している。このため4/7に7都府県に緊急事態宣言が出され、5/25に解除されるまで更新作業が滞ったことから見直しを図り、東北ESDセンター内で更新作業ができるよう体制を整えた。

ウェブサイトアクセス数 1日平均 15.2件



鹿角地域教育旅行関係者 SDGs セミナー (11/26)



東北コンソーシアム学びあいセミナー (8/29)

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

3) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会の運営等（仕様書番号Ⅳ - 2.-（３））

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
議長	見上一幸	公益社団法人仙台ユネスコ協会 会長 宮城教育大学 名誉教授
委員	浅野亮	気仙沼市・宮城教育大学連携センター主任運営員（運営統括）
	市瀬智紀	宮城教育大学 教員キャリア研究機構 機構 教授、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長
	齋藤修一	只見町教育委員会 前教育長
	渋谷晃太郎	岩手県立大学 総合政策学部環境政策講座 教授
	福岡真理子	一般社団法人あきた地球環境会議 事務局長、地域 ESD 活動推進拠点
	中田美英子	秋田県生活環境部温暖化対策課 課長
	佐々木紀子	山形県環境エネルギー部環境企画課 課長

●東北 ESD センター企画運営委員会情報共有会

東北 ESD センター企画運営委員会情報共有会	
開催日	R2.10.5（月）
会場	オンライン会議
参加者	14 名（委員 5 名）
内容	(1) 東北 ESD / SDGs フォーラム の企画について (2) 意見交換

●委員会の開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 1 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R2.7.3（月）
会場	オンライン会議
参加者	22 名（委員 5 名）
内容	(1) 会議主旨説明 (2) 地域循環共生圏構想について (3) 令和 2 年度事業計画について (4) 意見交換
第 2 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 2 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R3.2.1（月）
会場	オンライン会議
参加者	28 名（委員 6 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①令和 2 年度事業報告 ②意見交換 (2) 東北 ESD センター企画運営委員会 ①令和 2 年度事業報告 ②意見交換

4) 全国センター開催業務への出席及び対応（仕様書番号Ⅳ -2.-（４））

■ ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会

催事名	第 1 回連絡会
開催日	R2.8.28（金）
会場	オンライン会議
内容	(1) 2020 年度方針の確認 ・全国センターの計画 ・各地方センターの事業計画 (2) 2021 年度以降の ESD 推進ネットワークの方向性について (3) 全国・地方センターが連携して行う 2020 年度の具体的なアクションについて

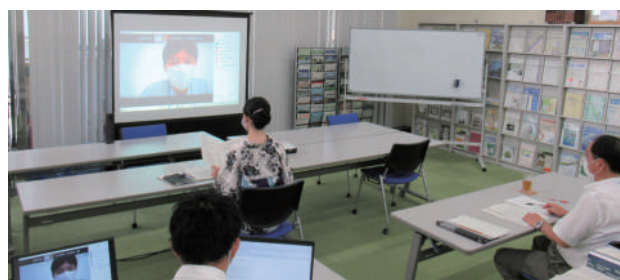
催事名	第 2 回連絡会
開催日	R3.2.8（月）
会場	オンライン会議
内容	(1) 2020 年度活動状況の共有 ①地方センター ②全国センター ・全国フォーラム ・可視化タスクフォース ・ウェブサイト改修 ・企画運営委員会 (2) 2021 年度の活動について ・分科会活動 ・全国フォーラム (3) ESD を巡る動向 ・GAP レビュー概要 ・次期国内計画案

■情報交換会

催事名	オンラインミーティング
開催日	R2.6.2（火）
会場	オンライン会議
内容	(1) 情報共有 ・全国・地方センターの状況、R2 年度の事業計画について (2) 意見交換

■全国センターによる地方センターヒアリング

催事名	東北 ESD センターヒアリング
開催日	R2.6.12（金）
会場	オンライン会議
内容	・これまで力を入れて取り組んできたこと ・今後の目標（1 年後～5 年後） ・現在抱えている問題点、課題 ・全国センター、ESD 推進ネットワークに期待すること ・「2020 年度の取組について（案）」への意見



第 1 回 ESD センター（全国・地方）連絡会（8/28）

5) ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ -2.-（5））

① ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席（仕様書番号Ⅳ -2.-（5） - ア）

催事名	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2020 SDGs 実現社会に向けた人づくり ～ ESD 推進ネットワークがつなく多様な主体の連携協力～
開催日	R2.12.19（土）
会場	オンライン配信
参加者	延べ 445 名
主催	ESD 活動支援センター、 文部科学省、環境省
内容	1. 基調講演 （1）持続可能な社会の創り手の育成に向けて 文部科学省国際統括官付国際戦略企画官 石田善顕氏 （2）SDGs 実現社会に期待される人材育成の取組 環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室室長 三木清香氏 （3）SDGs が創る世界と創り手を育む ESD ～持続可能性が試される時代を迎えて 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員 及川幸彦氏 （4）ESD を通した授業づくりと地域連携 多摩市立南鶴牧小学校校長 関口寿也氏 （5）ESD for 2030 のさらなる推進に向けた市民社会からの期待 NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議理事 鈴木克徳氏 2. 分科会 （1）分科会① ① -1【運営：北海道センター・関東センター】 次世代を対象とした SDGs 人材育成活動の探究と実践 ① -2【運営：中部センター・四国センター】 SDGs の取組を社会実装するための ESD ～どんな人材が望まれるのか、育成するのか （2）分科会② ② -1【運営：東北センター・近畿センター】 学校と地域が連携して SDGs の人材育成を進める学習指導案の作成と実践 ② -2【運営：中国センター・九州センター】 地域のレジリエンスと ESD 3. 全体ふりかえり 【バーチャル・ポスターセッション】 地域 ESD 推進拠点、全国規模の ESD 推進団体など各団体の取組を紹介する「バーチャル・ポスターセッション」のページをウェブサイト上に設置し、2021 年 1 月 29 日（金）まで公開した。
備考	・分科会ごとに 2 か所の地方センターが運営を担当した。 ・分科会② -1 の運営を東北 ESD センターと近畿 ESD センターが担当した。



ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2020（12/19）



ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2020 分科会(オンライン参加)(12/19)

Ⅲ-4. 事業実施報告（2）東北地方 ESD 活動支援センター業務

5) ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ-2.-（5））

②東北 ESD / SDGs フォーラムの開催（仕様書番号Ⅳ-2.-（5）-イ）

●事業背景

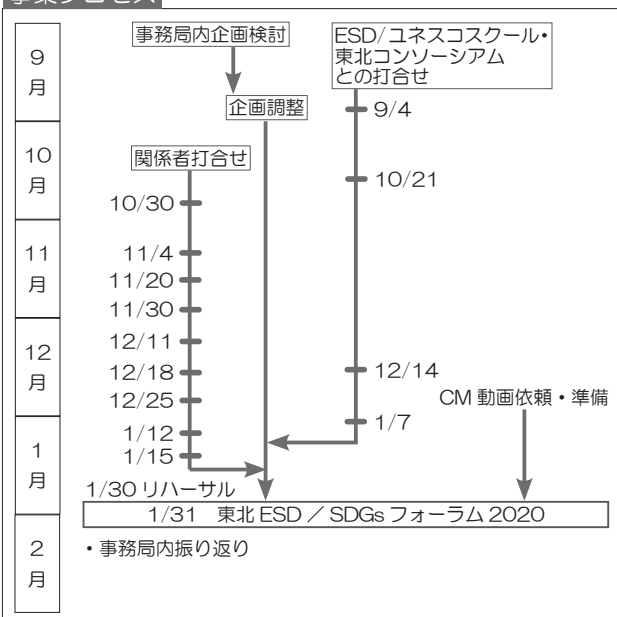
国連サミットにおいて「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、17 のゴールと 169 のターゲットからなる SDGs が策定された。2020 年 4 月から小学校の教科書に SDGs が掲載され、中学校や高校では探究活動のテーマに取り上げるなど学校現場でも関心が高まっている。

また、2020 年 4 月から始まった新学習指導要領には ESD の理念が掲げられ、「地域に関かれた教育課程」がうたわれている。学校が企業や NPO、地域と連携した学習機会が求められている。

●課題

- ESD や SDGs について十分に認知が広がっておらず学びの機会が求められている。
- 具体的な取組と成果について情報を求めるニーズがあり、同時に取組を進めている地域では広く活動を知ってもらうための発表の機会を欲している。例年開催してきたフォーラムのような、相互交流の機会が求められている。
- 催事の開催様式が全国的にオンラインセミナーへと変容している。資料画面を閲覧しながら音声を聞くセミナーを倦厭する声が多く、視聴者の関心を誘う企画の模索が課題となる。

事業プロセス



【メディア連携】ラジオ番組での告知

- コミュニティ FM 「RADIO3」
「トーク&トーク」(火) 12:00 ~ 12:30
※ 2 回放送 1/19、1/26
 - 「せんだいラジオ通信」
(月) ~ (金) 10:30 ~ 10:35
※ 前半・後半にわけて 2 日間放送 1/25、26
- ※ 仙台市内のコミュニティ FM が共同制作し 4 局同時放送する情報番組
ラジオ 3 (青葉区、若林区)
fm いずみ (泉区)
エフエムたいはく (太白区)
Rakuten.FM TOHOKU (宮城野区)

●企画趣旨

- 学校教育の現場に携わる関係者を中心に、連携相手となる企業や NPO、ESD に関心のある各主体を対象とし、地域と学校の連携事例を発信することで具体的な取組事例を学ぶ機会を創出する。
- オンライン開催によって東北外からも気軽に参加することができ、東北の事例を広く発信することを目的とする。

●東北 ESD センターのアプローチ

- 100 名を超す規模のオンラインフォーラムの開催は初めてとなること、ESD / SDGs がより理解されやすいよう基調講演に対談方式を採用することとしたことから、企画に際してメディア関係の専門家の参画を得た。
- 東北のネットワークの形成と東北地域の情報発信を念頭に置き、場面転換の時間を利用して CM 動画の配信を試みた。20 ~ 40 秒の短い時間の中で、東北各地で ESD に取り組む多様な団体に登場してもらうこととした。

【CM 動画協力団体】

※ 場面転換時に 20 ~ 40 秒程度の動画を配信

青森県	- 青森大学 学生有志 - 八戸工業大学第二高等学校
岩手県	(一社) カシオペア青年会議所 - FROM NIPPON
宮城県	(一社) 日本キリバス協会 - 尚絅大学 学生有志 - 風の時編集部 佐藤正実氏 - ランゲージサービスセンター 千葉浩氏 - サイレントボーカリスト 穀田千賀子氏
秋田県	(一社) あきた地球環境会議 - 仙北市教育委員会
山形県	- NPO 法人環境ネットやまがた - やまがたヤマネ研究会 - 三瀬地区自治会
福島県	(公財) 福島県観光物産交流協会 - コミュタン福島
東北他	- 環境省東北地方環境事務所 - Sonar Pocket (ソナーポケット) eyeron (アイロン) 氏 - ワッキー貝山氏 ((株) だけやま保育園アンバサダー)



フォーラム配信会場の様子 (1/31)

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

5) ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ -2.-（５））

②東北 ESD / SDGs フォーラムの開催（仕様書番号Ⅳ -2.-（５） - イ）

開催概要

催事名	東北 ESD / SDGs フォーラム 2020 みちのく SDGs ～東北からつなごう SDGs の輪～	
開催日	R3.1.31（日）	
会場	オンライン配信 ※登壇者および事務局は配信会場に参集 TKP ガーデンシティ仙台 21F ホール D・C（宮城県仙台市）	
主催	環境省東北地方環境事務所、東北地方 ESD 活動支援センター	
共催	ESD / ユネスコスクール・東北コンソーシアム	
協力	オフィス e	
後援	ESD 活動支援センター、地方 ESD 活動支援センター	
参加	104 名	
内容	【パーソナリティ（総合司会）】オフィス e 鈴木悦子氏	
	対談型 講演	「ESD・SDGs について知ろう！」 宮城教育大学 教員キャリア研究機構 教授、 ESD / ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長 市瀬智紀氏 × 鈴木悦子氏 《サプライズゲスト》manaco（マナコ）※宮城教育大学 学生による取組紹介 宮城教育大学社会科教育専攻 4 年 中野柊一郎氏 宮城教育大学数学専攻 4 年 岡崎悠太氏
	事例紹介	①幼稚園での実践事例紹介 宮城県気仙沼市立小泉幼稚園主任教諭 水野真由美氏 宮城県気仙沼市立松園幼稚園主任教諭 日下真知子氏 ②小学校での実践事例紹介 秋田県大仙市立藤木小学校校長 山信田浩氏 ③中学校での実践事例紹介 青森市立東中学校校長 角田毅氏 青森市立東中学校教諭 土岐礼一氏
全体質問		
参加者の 声	・大変面白くあっという間の 2 時間半でした。青森東中の活動は中学生の活動とは思えないほどで圧倒されました。 ・ESD の活動のために、地域連携が大切なことがわかった。県内の企業や支援団体との連携を図ってきたい。 ・とても多くの気づきをいただくことができました。ありがとうございます。SDGs の活動に取り組む方々にとっても、SDGs の観点からの学びの要素となるような取組を進めていく必要を感じました。 ・各地域の実践の内容や成果について分かり、参考になりました。SDGs の観点から教育課程や学習内容を見直すこと、地域学習や感性の教育の重要性など学ぶことが多かったです。 ・今回はオンラインによって幼・小・中・大での様々な ESD/SDGs 活動の実践例をとても興味深く聞かせて頂きとても充実した時間を過ごさせて頂き大変勉強になりました。 ・中身が濃いフォーラムで、とても勉強になりました。小さいうちからの取り組みから、自主的に考えられる大学生の取り組みなど、環境を整える重要性も感じました。	



●事業総括

【成果】

- ・メディア関係の専門家と協働することで新しいスタイルのオンラインフォーラムを開催することができた。東北以外の地域からも参加があり、広域性のある情報発信の可能性を見出すことができた。
- ・場面転換の時間を利用して CM 動画を配信する試みを行うにあたり、ネットワークを活用して東北各地の関係者から協力を得ることができた。学校、行政、教育施設、NPO、民間団体等、多様なネットワークを広げてきた手応えを感じることができた。

【課題】

- ・Google フォームを活用して事前申し込みの受付やアンケートを行ったが、事務局側も参加者側も不慣れなため円滑に申込受付や当日 URL の確認ができなかったケースがみられた。またアンケート画面へのアクセスに際して警告メッセージが表示されるケースもあり、アンケート回収率が低かった一因と考えられる。
- ・140 名を超える事前申し込みがあった一方で、当日の視聴は 104 名に留まった。オンラインセミナーが増える中での広報の工夫が課題となる。

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

5) ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ -2.-（５））

③地域 ESD 拠点の登録及び支援（仕様書番号Ⅳ -2.-（５）-ウ）

●地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）について

ESD 推進ネットワーク※の趣旨に賛同して ESD 推進ネットワーク推進に向けた中核的な役割を果たす組織・団体を登録して公開する仕組み。

※ ESD 推進ネットワーク：ESD の広がりや深まりを通じて地域の諸課題の解決と教育の質の向上、持続可能な社会づくりを目指す SDGs 達成に向けた意識、行動変革を進めることを目指している。

【構成】 ESD 活動支援センター
地方 ESD 活動支援センター（８カ所）
地域 ESD 拠点

地域 ESD 拠点は、地方センターのパートナーとして、他の地域 ESD 拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれる ESD をさまざまな形で支援することで、「ESD 推進ネットワーク」の中で中核的な役割を果たすことが期待されている。



●【全国】登録団体 136 件（R2.12.20 現在）

●【東北】登録団体 14 団体（R1 年度：11 団体）

NO.	県	団体名
1	青森	NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター
2		八戸工業大学第二高等学校・附属中学校
3	岩手	NPO 法人環境パートナーシップいわて
4	宮城	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
5		公益社団法人仙台ユネスコ協会
6		気仙沼 ESD / RCE 推進委員会
7		一般社団法人あきた地球環境会議
8	秋田	認定 NPO 法人 環境あきた県民フォーラム
9	山形	NPO 法人環境ネットやまがた
10		NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
11		福島工業高等専門学校
12	福島	只見町教育委員会
13		会津ユネスコ協会
14		いわきユネスコ協会

●東北 ESD センターのアプローチ

地域 ESD 活動推進拠点との連携・協働による事業展開を模索した。

	地域 ESD 拠点	内容
事業連携 ※ P54 参照	NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター	ESD 推進・地域研修会
	一般社団法人あきた地球環境会議	あきた SDGs チャットルーム
地域の相談対応 における連携	一般社団法人あきた地球環境会議	鹿角地域教育旅行関係者 SDGs セミナー
取組の支援	八戸工業大学第二高等学校・附属中学校	SDGs 勉強会、ワークショップの実施
	公益社団法人仙台ユネスコ協会	SALON & ZOOM 講座の共催、協力
催事の共催等	気仙沼 ESD / RCE 推進委員会	気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会 気仙沼 ESD / RCE 円卓会議 2020
情報交換の機会	只見町教育委員会	活動状況に関するヒアリング
	会津ユネスコ協会	活動状況に関するヒアリング
	認定 NPO 法人 環境あきた県民フォーラム	活動状況に関するヒアリング
	地域 ESD 活動推進拠点	ESD ネットワーク会議
	公益社団法人仙台ユネスコ協会	東北ブロック ユネスコ協会とのオンライン情報交換会
	会津ユネスコ協会	
	いわきユネスコ協会	

●事業総括

【成果】

- 東北にあるユネスコ協会とのネットワークづくりを目指して、地域 ESD 拠点に登録している各ユネスコ協会との連携のもとで情報交換会の場づくりに取り組んだ。オンライン会議への参加が難しい協会もあり、対面によるヒアリングを通じた関係構築の必要性を把握できた。
- 過年度と比べて地域 ESD 拠点との連携が増えた。戦略的に各拠点にアプローチしたことで、案件に応じて多様な連携を創出することができた。

【課題】

- 一部の地域 ESD 拠点との連携に留まっており、東北地域における地域 ESD 拠点同士の連携体制の構築には至っていない。東北 ESD センターと地域 ESD 拠点の連携のあり方や地域 ESD 拠点同士が連携する仕組みの模索が課題となる。
- 全ての団体がオンライン会議に対応できる状況ではないため、対面とオンラインの併用および情報共有のあり方の工夫が求められる。次年度もコロナウィルス感染症への対応が続くことが予想されることから、新しい事業スタイルの構築が課題となる。

④ ESD ネットワーク会議（仕様書番号Ⅳ-2-（5）-エ）

●事業背景

地域の ESD 活動を推進する拠点として 2017 年 7 月に東北地方 ESD 活動支援センターが開設されたが、東北地方では以前より「ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム」が東北のネットワークをつなぎ、ESD 活動を牽引してきた。既存の知見とネットワークに学び、多様性のあるネットワークを形成するために、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアムと東北地方 ESD 活動支援センターが共催し、互いのネットワークが交わり相互に学び合う場の形成を目的に、年に 1 度「ESD ネットワーク会議」を開催している。

[ESD ネットワーク会議の構成]

- ・東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員
- ・EPO 東北パートナーシップ団体
- ・ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員

開催概要

催事名	ESD ネットワーク会議		
開催日	R3.2.20（土）		
会場	オンライン会議 ※事務局は配信会場に参集 HUMOS5 8F 会議室大（宮城県仙台市）		
参加者	51 名		
主催	東北地方 ESD 活動支援センター、 ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム		
内容	話題提供	青森	八戸工業大学第二高等学校 坂上尚子氏
		岩手	FROM NIPPON 境悠作氏
		宮城	宮城県富谷高等学校 塗田宣幸氏
		秋田	大仙市立大曲南中学校 後藤高仁氏
		山形	やまがた ESD・SDGs 研究会 新宮清氏
		福島	いわきユネスコ協会 渡邊隆氏
	意見【コーディネーター】 交換 宮城教育大学 名誉教授 小金澤孝昭氏		
参加者の声（抜粋）	・企業の中で教育をどのように進めて行くべきか、ヒントを得ることができました。 ・学校での事例は大変勉強になりました。今回の岩手のような民間環境団体等の取組み事例の情報も欲しいです。 ・他の団体さんの取り組みの報告を聞くことができ、大変に参考になりました。今後ネットワーク会議には団体と団体をつなぐコーディネートをいただくと助かります。		

●事業総括

【成果】

- ・ESD を推進する各主体が地域でどのような連携を行っているのか、「SDGs を通した人づくり」という共通の視点から事例を共有することができた。
- ・オンライン会議の開催後に Web アンケートを実施し、会議運営についてや、東北 ESD 活動支援センターに期待する情報発信の内容について具体的な意見を回収することができた。

●課題

- ・東北 ESD センター設立以降、各関係団体と少しずつ事業協力や連携を進めてきたが、東北 ESD センターと ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアムの関係者が一堂に会する機会がなく、ネットワークが点の状態である。
- ・東北地方における ESD 活動について、関係者間で情報を共有する機会が少ない。

●プロジェクト概要

ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアムのメンバーと、東北地方 ESD 活動支援センターならびに EPO 東北の環境系ネットワークのメンバーが、東北各地の多様な ESD の取組について情報を共有する場としてネットワーク会議を開催する。



ESD ネットワーク会議 配信会場の様子（2/20）



ESD ネットワーク会議（2/20）

【課題】

- ・オンライン会議の参加人数に比例して双方向性のある場づくりが難しく、会議運営のあり方は課題である。予めルールを整理して参加者に提示する等の改善が求められる。
- ・多様なステークホルダーの参画や情報発信の強化を求める声が寄せられており、会議のあり方について見直しが必要と考える。

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

５）ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ -2.-（５））

⑤ ESD 推進・地域研修会（仕様書番号Ⅳ -2.-（５） - オ）

●事業背景

東北では ESD / SDGs に関する認知が広がっていないものの、ESD や SDGs に該当する活動を行っている団体や教育機関等が多数存在する。

地方 ESD 活動支援センターの役割として、地域の活動に目を向け、ESD 活動の促進と SDGs の視点を持って活性化を図る支援が期待されている。

●課題

- ・東北地方において地域 ESD 活動推進拠点（以下、地域 ESD 拠点）への登録団体が増えているが、地域 ESD 拠点と東北 ESD センターの連携また地域 ESD 拠点同士の連携のあり方が課題となっている。
- ・昨年度勉強会を開催した、青森県ではまだまだ ESD / SDGs の認知が低く、ユネスコスクールの登録校も１校となっている。
- ・教育現場では、学習指導要領に ESD が明記され、教科書に SDGs が掲載されたがどのように授業プログラムに取り入れるのか、どのように伝えるのが課題となっている。

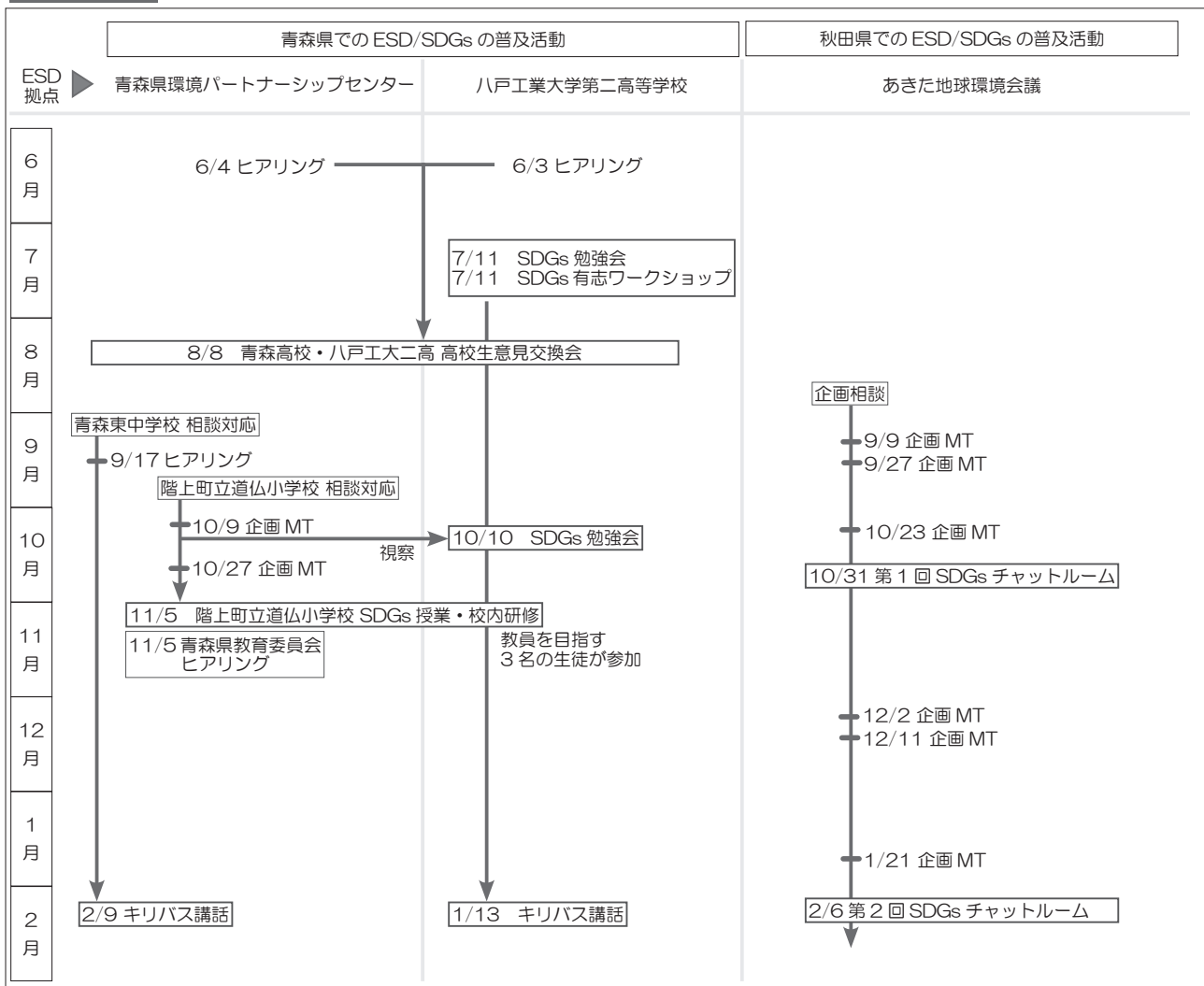
●プロジェクト概要

- ・ESD / SDGs の普及のため、青森県および秋田県の地域 ESD 拠点と協働し、それぞれの課題やニーズに添ったプログラムを企画する。
- ・各プロジェクトの参加者のモチベーション向上と行動変容につながるよう、事業企画を行った。

●EPO 東北のアプローチ

- ・昨年度に引き続き青森県内での ESD/SDGs の普及活動に加え、秋田県内での ESD・SDGs の普及を目的に地域 ESD 拠点にヒアリングを行い、ヒアリングから得た情報・ニーズをもとに連携したプログラムを企画した。
- ・各プログラム実施にあたり、地域 ESD 拠点や関係者に案内を行い参加を促した。
- ・SDGs をより具体的に身近に感じていただくため、グローバルな視点から理解を深めるプログラムの提案を行った。
- ・東北地方 ESD 活動支援センターの持つネットワークを活用し、活動の支援を行った。

事業プロセス



■八戸工業大学第二高等学校科学愛好会・青森県立青森高等学校自然科学部意見交換会

地域 ESD 拠点である青森県環境パートナーシップセンターと八戸工業大学第二高等学校のヒアリングをきっかけに、八戸工業大学第二高等学校科学愛好会と青森県環境パートナーシップセンターからのご紹介で青森県立青森高等学校科学愛好会のマイクロプラスチック研究に関する意見交換会を企画・開催した。意見交換会と同時に青森県環境パートナーシップセンター主催の令和 2 年度青森県地球温暖化防止活動推進員研修会プログラムにて各校の研究発表を実施した。



意見交換会（8/8）

開催概要

催事名	八戸工業大学第二高等学校科学愛好会・青森県立青森高等学校自然科学部意見交換会
開催日	R2.8.8（土）
会場	青森県男女共同参画センター アピオ青森 保健指導室（青森県青森市）
参加者	16 名 (八戸工業大学第二高等学校科学愛好会 生徒 4 名・引率教員 1 名、青森県立青森高等学校 生徒 3 名・引率教員 1 名 他)
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
内容	【ファシリテーター】 (一社)コ・クリエーションデザイン代表理事 平田裕之氏 ・自己紹介、アイスブレイク ・推進員研修会の発表での感想 ・現在の学校生活の状況、研究状況共有 ・研究する上での悩み・課題

■階上町立道仏小学校 総合的な学習「SDGs 授業」「校内研究」

昨年度開催した青森県第 1 回 ESD/SDGs 勉強会の参加者である階上町立道仏小学校の藤田校長より、SDGs をテーマにした授業の相談を受けた。今年度から小学 6 年生の社会の教科書に SDGs が記載されたが、生徒が自分事として捉え行動変容につなげる授業のあり方が求められる。青森県環境パートナーシップセンターから青森県地球温暖化防止活動推進員で元小学校校長である貝森氏を講師として推薦いただき、授業の企画実施をお願いした。

授業は校内研究として全教員が見学し、授業後に意見交換を行った。また八戸工業大学第二高等学校に授業実施を案内し、教員を目指す 3 名の生徒が参加した。



階上町立道仏小学校 総合的な学習（11/5）

開催概要

催事名	階上町立道仏小学校 5～6 年生総合的な学習「SDGs 授業」「校内研究」
開催日	R2.11.5（木）
会場	階上町立道仏小学校（青森県三戸郡）
参加者	31 名
主催	階上町立道仏小学校、 東北地方 ESD 活動支援センター
内容	【SDGs 授業】 講師／青森県地球温暖化防止活動推進員 貝森毅彦氏 ・今まで学習した SDGs を振り返る ・SDGs12 番「つくる責任つかう責任」から自分ができること考えるグループワーク 【校内研究会】 (1) 実施した授業プログラムについて 貝森毅彦氏 (2) SDGs の国内、世界の動きについて 東北地方 ESD 活動支援センター 小泉照



階上町立道仏小学校 校内研究会（11/5）

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

５）ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ -2.-（５））

⑤ ESD 推進・地域研修会（仕様書番号Ⅳ -2.-（５） - オ）

■青森県内中・高等学校におけるキリバス講話

地域課題だけではなくグローバルな視点から SDGs を捉え、多角的な視点から理解を深めるために、キリバス講話を企画した。気候変動の影響を受け、2050 年には国がなくなる危機に面しているキリバス共和国の現状を伝える講演活動に取り組むケンタロ・オノ氏を紹介し、青森県内の 2 校で講演会を実施した。

地球温暖化・気候変動の影響に加えて、太平洋でつながっている日本から大量のプラスチックごみが漂着していることなどが紹介された。普段の生活が地球の未来に直結していること、これらの問題解決には SDGs の達成が不可欠であることがメッセージとして伝えられた。



八戸工業大学第二高等学校 地球環境問題理解のための講演会（1/13）



八戸工業大学第二高等学校パネルディスカッション（1/13）



デーリー東北 1/16 号に掲載

開催概要

①八戸工業大学第二高等学校

催事名	地球環境問題理解のための講演会
開催日	R3.1.13（水）
会場	八戸工業大学第二高等学校 体育館 （青森県八戸市）
参加者	附属中学校 1～3 年生、高校 1～2 年生、教員 合計 400 名
主催	八戸工業大学第二高等学校 東北地方 ESD 活動支援センター
内容	・講演「The future we want 私たちが望む未来」 （一社）日本キリバス協会 ケンタロ・オノ氏 ・パネルディスカッション 進行 藤澤諒先生 登壇者 ケンタロ・オノ氏、 高校生 3 名、 北奥羽自然史研究所 高橋晃氏

②青森市立東中学校

催事名	気候変動から考える SDGs 講演会
開催日	R3.2.9（火）
会場	オンライン配信
参加者	1～2 年生、教員 合計 190 名 ※オブザーバー参加 NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター 青森大学社会学部 藤公晴教授
主催	青森市立東中学校 東北地方 ESD 活動支援センター
内容	①青森市立東中学校の取組みについて 青森市立東中学校 1 年生より紹介 ②講演 「The Future we want 私たちが望む未来」 （一社）日本キリバス協会 ケンタロ・オノ氏 ③質疑応答



青森市立東中学校 SDGs 講演会（2/9）

■秋田県

地域 ESD 拠点であるあきた地球環境会議と連携し、秋田県内での SDGs の認知度を上げる普及活動に取り組んだ。興味関心のある方が気軽に参加できる、オンラインによる SDGs チャットルームを企画実施した。

各回の講師の紹介を行い、実施当日は事例紹介やグループワークの進行補助等協力を行った。



第1回 SDGs チャットルーム (10/31)



第2回 SDGs チャットルームチラシ

開催概要

①第1回 SDGs チャットルーム

催事名	第1回 SDGs チャットルーム 「SDGs ×あきた」持続可能な未来をデザイン
開催日	R2.10.31 (土)
会場	オンライン配信
参加者	20名
主催	一般社団法人あきた地球環境会議
共催	東北地方 ESD 活動支援センター
内容	(1) SDGs についての講義 (一社)コ・クリエーションデザイン代表理事 平田裕之氏 (2) グループワーク 「未来の秋田のシナリオ」 全体コーディネーター 平田裕之氏

①第2回 SDGs チャットルーム

催事名	第2回 SDGs チャットルーム ローカル SDGs の実現 米焼酎「ねっか」
開催日	R3.2.6 (土)
会場	オンライン配信
参加者	22名
主催	一般社団法人あきた地球環境会議
共催	東北地方 ESD 活動支援センター
内容	(1) ESD と SDGs の関係性講義 (一社)コ・クリエーションデザイン代表理事 平田裕之氏 (2) 話題提供 只見町教育委員会前教育長 齋藤修一氏 (3) グループチャット 只見町の事例を使って、町づくりと SDGs とのつながりを紐解く

●事業総括

【成果】

- 大きな勉強会こそ開催できなかったものの、地域 ESD 拠点との連携・協働による事業を実施することができた。また、地域 ESD 拠点間の連携を生み出すことができた。
- 青森県においては昨年度構築したネットワークに加えて、新たな学校とのつながりや、八戸地域でのネットワークを生み出すことができた。これをきっかけに、当初予定していなかった連携企画やプロジェクトが生まれ、ESD 活動の推進に資する事業を実施できた。

【課題】

- 令和元年度に青森県内で実施した ESD 地域研修会を継続実施し、活動の活性化を目指していたが、コロナウィルス感染症への懸念から予定していた事業を見合わせた。各関係者との連携をつなぎ、継続したアプローチが課題となる。
- 本年度実施した取組が継続し活動の新たな展開へと発展するよう、今後のフォローアップが必要となる。また、各地の取組事例を他の地域 ESD 拠点と共有し、さらなる活動の活性化が課題となる。

Ⅲ -4. 事業実施報告（2）東北地方 ESD 活動支援センター業務

6) その他（仕様書番号Ⅳ -2.-（6））

東北地方 ESD 活動支援センター、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム、東北地方環境事務所による関係者打合せを定期的に開催した。

●開催

開催日	第 1 回	R2.6.18（木）
	第 2 回	R2.9.4（金）
	第 3 回	R2.10.21（水）
	第 4 回	R2.12.14（月）
	第 5 回	R3.1.7（木）
	第 6 回	R3.2.5（金）
場所	オンライン会議	
内容	①事業進捗と予定の共有 ②共催事業について企画検討	



定期ミーティング（6/18）

Ⅲ -4. 事業実施報告（3）東北地方環境事務所との協働による事業実施

（仕様書番号Ⅴ）

事業運営会議

●構成団体

東北地方環境事務所
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
EPO 東北

●開催

開催日	第 1 回	R2.6.29（月）
	第 2 回	R2.8.24（月）
	第 3 回	R2.10.19（月）
	第 4 回	R2.11.26（木）
	第 5 回	R3.1.12（火）
場所	EPO 東北（宮城県仙台市）	
内容	① EPO 東北事業の進捗確認 ②意見交換	



第 2 回事業運営会議（8/24）

Ⅲ -4. 事業実施報告（４）企業等との協働事業

（仕様書番号Ⅶ）

1) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

■地球環境基金主催 EPO 連絡会議

開催日	R2.8.27（木）
会場	川崎市産業振興会館9階第3研修室A・B （神奈川県川崎市） ※ハイブリット開催、EPO 東北はオンライン参加
内容	①新型コロナウイルス感染症による助成事業への影響と対応状況について ②2020 年度助成金募集及び結果について ③2021 年度助成金募集にかかるスケジュールについて ④今年度の助成金説明会について ⑤全国及び地方ユース環境活動発表大会について ⑥コロナ禍における環境市民活動の現状について

■2021 年度地球環境基金 助成金オンライン説明会（東北地区）

開催日	R2.10.29（木）
会場	オンライン配信
参加者	20 名
主催	独立行政法人環境再生保全機構
企画運営	EPO 東北
内容	①講演 オンライン会議・イベントのコツ NPO 法人メディアージ 漆田義孝氏 ②活動紹介 一般社団法人あきた地球環境会議 福岡真理子氏 ③地球環境基金からの情報提供



■第6回全国ユース環境活動発表大会 Web 発表大会

催事名	第6回全国ユース環境活動発表大会 Web 発表大会
開催日	地方大会 R2.12.1（火）～14（月） 全国大会 R3.1.22（金）～29（金）
会場	オンライン配信
出場校	16 校
主催	全国ユース環境活動発表大会 実行委員会 （環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所）
後援	読売新聞東京本社
協力	環境省地方環境パートナーシップオフィス 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） ESD 活動支援センター
協賛	キリンホールディングス株式会社 協栄産業株式会社 SG ホールディングス株式会社 株式会社タニタ
内容	・公開期間内に自由な場所と時間に Web 上で閲覧できる「オンディマンド」で実施 ・出場校による「高校生が選ぶ特別賞」の投票、「先生が選ぶ特別賞」の投票を行なった後、審査委員による「審査会」を開催
備考	全国大会 16 高校 出場 （各地方大会 2 校選出 × 8 地方大会） 【東北ブロック 全国大会出場校】 青森県立むつ工業高等学校 課題研究 地中熱利用による融雪研究班 「R2 地中熱利用による融雪研究班」 宮城県農業高等学校 科学部チーム smiles 「サクラの新品種開発で桜の緑被率を上げる～被災農業高校が立ち向かう震災 10 年目の挑戦！～」



第6回全国ユース環境活動発表大会 Web 発表大会ウェブサイト

2) GreenGift 地球元気プログラム

●事業概要

東京海上日動火災保険株式会社では、契約時に「契約のしおり（約款）」等をホームページでの閲覧をお客様に選択していただくことで紙資源の使用量削減に取り組み、削減額の一部で環境保護活動のサポートを実施している。

東京海上日動火災保険株式会社の各地域部店が、地域の環境に関する親子対象の体験活動プログラム「Green Gift 地球元気プログラム」と提供している。本事業は10月から翌年9月までを年度の区切りとし、実施地域は東京海上日動火災保険株式会社の各地域部店からの応募により、本店によって決定される。

2013年から取り組まれているプログラムは2019年9月で第3期が終了し、2019年10月から第4期の取り組みが始まっている。

各団体の役割

主催／各地域の環境 NPO
共催／日本 NPO センター
協力／各地方 EPO
協賛／東京海上日動火災保険株式会社
後援／環境省

○第4期（2019年10月～2022年9月）実施団体

青森県	小川原湖自然楽校
岩手県	一般社団法人いわて流域ネットワーク
山形県	やまがたヤマネ研究会

○年間振り返り全国会議

開催日	R2.12.7（月）
会場	オンライン会議
内容	(1) 2019 年度全体報告 (2) 2019 年度実施団体事例紹介 (3) ワールドカフェ ① コロナ禍での工夫と苦労 ② 2020 年度 GreenGift 地球元気プログラムでやりたいこと

EPO の役割

① 実施団体候補の選定における情報提供と調整

東京海上日動火災保険株式会社の各地域部店が連携・協働する実施団体の選定をするにあたり、各地域部店から要望等をヒアリング後、候補となり得る環境 NPO 等を選出し、情報提供を行った。

② 環境 NPO と東京海上日動火災保険株式会社各地域部店の調整

各地域部店が実施団体の選定後、環境 NPO 等に事業の趣旨説明や参画依頼を行った。その後、環境 NPO と各地域部店が事業趣旨や実施の流れについて確認する顔合わせの場を調整した。

③ 企画・広報・実施のサポート

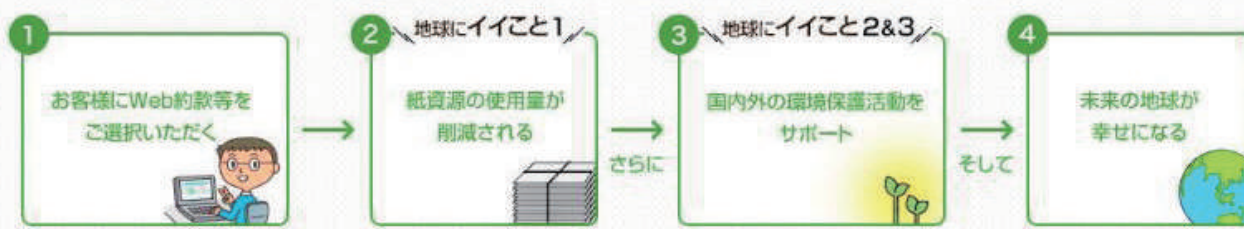
企画に際し、関係者の意見を反映できるよう促した。また、EPO 東北のウェブサイトやメールマガジンにて広報の協力を行った。当日は各地域部店の社員が参加するよう促し、運営スタッフとしてサポートを行った。



「Green Gift」プロジェクトの概要

東京海上日動では「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいます。

- ・お客様に「ご契約のしおり（約款）」等を紙の冊子ではなく、ホームページ上で閲覧いただく「Web 約款」等をご選択いただくことにより、紙資源の使用量を削減。
- ・紙資源使用量削減額の一部の寄付を通じて、マングローブ植林をはじめとした国内外の環境保護活動をサポート。



Green Gift 地球元気プログラムウェブサイトより

● 2019 年度（2019 年 10 月～ 2020 年 9 月）

実施都道府県①青森県

実施団体：小川原湖自然楽校

日本でも数少ない自然にできた浮島に、自分たちで作ったいかだで渡り、浮島がどうやってできているのか、どんな植物や生き物が生息しているのかを探検するプログラムを実施した。

タイトル	根井沼で浮島探検をしてみよう！
開催日	R2.9.6（日）
場所	青森県三沢市早稲田地内根井沼
参加者	親子 7 名
感想 （抜粋）	・自分でいかだを作って漕ぐ体験はなかなかできないのでいい経験になった。 ・初めて浮島というものに触れて、実際に探検することができて楽しかった。



根井沼で浮島探検をしてみよう！ (9/6)

実施都道府県②岩手県

実施団体：一般社団法人いわて流域ネットワーク

川での事故を聞くことが多くなったが、川のどんな場所が危険なのか、危険な状況になった場合どんな対応をすればよいのか、座学と実技を通じて水辺での事故から自分の命を守る安全教室を実施した。また御所湖でのカヌー体験を実施した。

タイトル	親子でカヌー！&水辺の安全教室
開催日	R2.9.13（日）
場所	御所湖広域公園艇庫
参加者	親子 7 名
感想 （抜粋）	・地元の川が海に繋がり、その世界が海に繋がっているの、出発点の地元の川を汚さない。 ・ここまでの湯水の御所湖は初めて見たので、環境が変わりつつあると感じる。



親子でカヌー！&水辺の安全教室 (9/13)

実施都道府県③山形県

実施団体：やまがたヤマネ研究会

環境省の全国水生生物調査票と団体オリジナルの調査票を用いて、貴重生物種の保全や水質・水源保全のお話をしながら、水辺にすむ生き物の調査と水質調査を実施した。

タイトル	川の周りに何がいます！？ 川辺の生物を調べてみよう！
開催日	R2.8.22（土）
場所	大井沢キャンプ場
参加者	親子 28 名
感想 （抜粋）	・魚のエサとなる小さな生き物がいないと食物連鎖がつぶれると思った。 ・川虫がこんなに少ないのをはじめてみた。季節によって変わるんだと思った。



川の周りに何がいます！？川辺の生物を調べてみよう！ (8/22)

東北環境パートナーシップオフィス 運営第5期 令和2年度事業実施報告書（2020年度）
発行：令和3年3月31日

■東北環境パートナーシップオフィス（EPO 東北）
TEL：022-290-7179 FAX：022-290-7181
E-mail：info@epo-tohoku.jp
URL：https://www.epo-tohoku.jp

■東北地方 ESD 活動支援センター
TEL：022-393-9615 FAX：022-290-7181
E-mail：info@tohoku-esdcenter.jp
URL：https://tohoku.esdcenter.jp/

office：〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎1F
OPEN 9：30－18：00（月～金）



EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development



◇運営団体◇公益財団みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）
office：〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
TEL：022-276-5118 FAX：022-219-5713
E-mail：melon@miyagi.jp
URL：https://www.melon.or.jp/index.html